

東京外国語大学

国際社会学部の歩き方

2024



東京外国語大学



国際社会学部の歩き方

2024 年度入学生版

目次

1. 国際社会学部へようこそ！（国際社会学部長 千葉敏之）	2
2. 国際社会学部の4年間	4
3. 履修にあたっての注意点と履修モデル	9
4. 学内活動紹介	12
5. 学生によるゼミ案内	14
6. 学部賞受賞者紹介	20
7. 卒業後の進路	22
8. 学びのサポート案内	24
9. 国際社会学部教員一覧	28
10. よくある質問コーナー	31

『国際社会学部の歩き方』は、東京外国語大学国際社会学部の新入生を主な対象として、授業の履修の仕方や大学での学び方を知るためのガイドブックとして作成しています。

1. 国際社会学部へようこそ！

学部長メッセージ（千葉敏之）

本学国際社会学部へのご入学、おめでとうございます。いよいよ東京外国語大学での大学生活がスタートします。期待に胸を膨らませる皆さんも、まる一日をかけての履修ガイダンスを終える頃には、新しい生活、小・中・高までとはまるで違う〈大学生活〉自体に戸惑いを覚えているかもしれません。『履修案内』を読んでも、壇上から諸先生の説明を聞いても、なかなか自分の生活と結びつかない。そんな皆さんにもっと確かな〈道順〉を提供するのが、この小冊子、通称『歩き方』です。『履修案内』にある堅めの説明が、学生・教員の〈生きた声 viva voce〉を助け船に、うまく消化できるよう、噛み砕いて解説されています。

大学を無事卒業するには125単位が必要なことはわかる。講義は1学期15回（AL2回含めて！）で2単位、でもドイツ語やアラビア語の授業は1単位。これを毎年着実に積み上げていけば、単位は集まる…。大学での勉強、いや学問は自由なのだから、何を取っても良いはず。でも、学年ごとに絶対に取らなくてはいけない必修科目がたくさんある。専攻語の授業はクラスも時間も決まっていて、変えられない。反対に、導入科目や世界教養科目は比較的自由に選択できる。じゃあ、いったい何を選択したら良いだろう？

ここまで考えが進んだら、『歩き方』の出番です。将来何になりたいか、夢がはっきりしている人もそうでない人も、まずは各ページにある本学卒業生・在学生の生の声に耳を傾けてみましょう。そのうえで、力作の「コース別履修モデル」へ。長期留学を考えている人、短期留学をしながら4年間で卒業しようと考えている人、実際に先輩たちが辿った道であるからこそ、リアルです。イメージが固まってきたら、最初のページに立ち返って、ページの順に読み進めてください（㊤『キーワード検索のすすめ』パンフレット）。

全く別のアプローチもありえます。いま何が勉強したいか、必修科目や必要な単位の取得のことは考慮しつつも、いま学びたいことを純粋に学びたい。そんな人は、本学部の先生たちの専門について調べてみましょう（国際社会学部HPにある「専任教員プロフィール」「学問分野」ファイルを御覧ください）。高校と違い、大学の教員はみな研究者です。研究講義棟には世界を様々な手法で研究する、実に多様な専門家の研究室が犇めいています。扉を開けば（アポは取ってね）、部屋の設えや書棚に並ぶ書籍の背表紙に、研究者の人となりを感じることができるでしょう。そして、世界を読み解き、未来を提言しうる学問分野がどれだけあるのか、その圧巻の全体像に迫ることが大切です。既製品でなく、自分で考えてオーダーメイドできる学びの豊かさこそが本学の個性。そのためにはまず、研究者たる教員の専門や人柄をよ〜く知ることが一番です。そのうちの一人が、皆さんの運命を左右する（？）ゼミの指導教員になるのですから（㊤「学生によるゼミ案内」）。

東京外国語大学には、他の大学にはない唯一無二の個性があります。本学150年の歴史のなかで夥しい数の学生と教職員が踏み締めてきた伝統です。それは、外語祭での料理店や語劇、サークル活動や部活動、こうした学生どうしの間柄が親密であること（㊤「学内活動」）。そして、学生どうしだけでなく、1年次から卒業まで続く教員と学生の距離も、その息遣いが伝わるほどに近いことです。一方で本学は、一匹狼として孤高に、学問、文学、課外活動に没頭する学生が自分らしく過ごせる場でもあります。〈大学 universitas〉が、その誕生いらい、自由な空間であるからです。

楽しい大学生活においても、物事がうまくいかない時はあります。友達にも相談できない辛さを感じたときは、『相談窓口ガイド』パンフレットを見てください。学生どうしでは解決できない問題も、相談員の方々や先生方に相談したら、うまくいくかもしれません。必要な時は立ち止まって、人の助けを借りることも大切です。そこから新しい絆が生まれて、景色が一変することがあるからです。

新型コロナウイルス感染症が五類感染症に移行して、およそ1年が経とうとしています。私たちのTUFSでも、昨年11月の外語祭はフルスペックで開催され、海外留学ではコロナ前を上回る815名（長期留学）もの学生が世界各地へ飛び立ちました。大学のキャンパスとは本来、生身の人間と人間が行き交う公共広場。巨大な円から直線が四方に伸びる府中キャンパスの平面図は、船舶に喩えるなら、さながら世界に向けて開かれた国際貿易港のよう。研究講義棟は、いわば船を建造・保守する船渠です。この場所に、数え切れない先輩たちが、言葉と知と感情をぶつけ合いながら、青春の記憶を刻んできました。皆さんも、それぞれの希望を胸に秘めつつ、先人たちの肉声が響くこの府中の港に、鮮やかな航跡を記していきましょう。



国際社会学部の見取り図 ～大学での学びから社会へ、そして世界へ～

所属する業界 企業・組織・職種	<p style="text-align: center;">国際社会と世界諸地域をつなぐ仕事</p> <p style="text-align: center;">国際機関／政府組織／民間企業／マスメディア／研究機関・大学／国連／外務省・大使館／製造／金融保険／アパレル／建築／エネルギー／広告／テレビ局／新聞社／国内外の大学院／芸術アート／IT 情報通信／コンサルティング／国家公務員／地方公務員／教員</p>																																																																				
取り組む仕事	<p style="text-align: center;">開発・技術協力支援／安全保障／政策立案／人材育成・教育支援／通商貿易／文化交流・文化遺産保護／環境保全／サステナビリティ／学術交流／人的交流／組織間連携／外交／製品開発／エネルギー政策／食文化広報／コミュニティ</p>																																																																				
身につける能力 状況判断と調整力	<div style="text-align: center;"> </div>																																																																				
高度な専門性 ゼミ・専門講義	<p style="text-align: center;">長期留学（協定校・一般大学への長期留学：語学だけでなく、専門を磨き、社会を学ぶ）</p> <p style="text-align: center;">55名の専門の多様なゼミと指導教員（3つのコース）</p> <table border="1" style="width: 100%; text-align: center;"> <tr> <td style="background-color: #4CAF50; color: white;">経済学系</td> <td style="background-color: #FF9800; color: white;">政治学系</td> <td style="background-color: #2196F3; color: white;">歴史学系</td> <td style="background-color: #FF9800; color: white;">地域研究系</td> <td style="background-color: #9C27B0; color: white;">ジェンダー・社会学系</td> <td style="background-color: #4CAF50; color: white;">教育学系</td> </tr> <tr> <td>経済学 開発経済学 経済思想</td> <td>国際政治学 国際法 安全保障研究 政治哲学・原論</td> <td>歴史学・感情史 記憶／歴史認識論 社会経済史学 建築史・美術史</td> <td>地域研究 （13地域＋α） 地理情報システム学</td> <td>国際社会学 レイニズム・スタディーズ グローバルスタディーズ</td> <td>比較国際教育学 教育社会学 ★教職科目</td> </tr> </table> <p style="text-align: center;">専門授業の柱となる42のキーワード</p> <table border="1" style="width: 100%; text-align: center;"> <tr> <td>宗教</td><td>貧困</td><td>社会運動</td><td>歴史</td><td>思想</td><td>人種</td><td>経済</td> </tr> <tr> <td>信頼</td><td>開発</td><td>アクティビズム</td><td>国家</td><td>人権</td><td>レイニズム</td><td>資本主義</td> </tr> <tr> <td>信用</td><td>法</td><td>民主主義</td><td>ナショナリズム</td><td>人道</td><td>エスニシティ</td><td>社会主義</td> </tr> <tr> <td>労働</td><td>制度</td><td>紛争解決</td><td>グローバリゼーション</td><td>権力</td><td>都市</td><td>ジェンダー</td> </tr> <tr> <td>産業</td><td></td><td>平和構築</td><td>帝国</td><td>暴力</td><td>記憶</td><td>セクシュアリティ</td> </tr> <tr> <td>貿易</td><td></td><td>国際機構</td><td>植民地</td><td>環境</td><td></td><td>移民</td> </tr> <tr> <td></td><td></td><td>地域機構</td><td></td><td></td><td></td><td>難民</td> </tr> <tr> <td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td>教育</td> </tr> </table>	経済学系	政治学系	歴史学系	地域研究系	ジェンダー・社会学系	教育学系	経済学 開発経済学 経済思想	国際政治学 国際法 安全保障研究 政治哲学・原論	歴史学・感情史 記憶／歴史認識論 社会経済史学 建築史・美術史	地域研究 （13地域＋α） 地理情報システム学	国際社会学 レイニズム・スタディーズ グローバルスタディーズ	比較国際教育学 教育社会学 ★教職科目	宗教	貧困	社会運動	歴史	思想	人種	経済	信頼	開発	アクティビズム	国家	人権	レイニズム	資本主義	信用	法	民主主義	ナショナリズム	人道	エスニシティ	社会主義	労働	制度	紛争解決	グローバリゼーション	権力	都市	ジェンダー	産業		平和構築	帝国	暴力	記憶	セクシュアリティ	貿易		国際機構	植民地	環境		移民			地域機構				難民							教育
経済学系	政治学系	歴史学系	地域研究系	ジェンダー・社会学系	教育学系																																																																
経済学 開発経済学 経済思想	国際政治学 国際法 安全保障研究 政治哲学・原論	歴史学・感情史 記憶／歴史認識論 社会経済史学 建築史・美術史	地域研究 （13地域＋α） 地理情報システム学	国際社会学 レイニズム・スタディーズ グローバルスタディーズ	比較国際教育学 教育社会学 ★教職科目																																																																
宗教	貧困	社会運動	歴史	思想	人種	経済																																																															
信頼	開発	アクティビズム	国家	人権	レイニズム	資本主義																																																															
信用	法	民主主義	ナショナリズム	人道	エスニシティ	社会主義																																																															
労働	制度	紛争解決	グローバリゼーション	権力	都市	ジェンダー																																																															
産業		平和構築	帝国	暴力	記憶	セクシュアリティ																																																															
貿易		国際機構	植民地	環境		移民																																																															
		地域機構				難民																																																															
						教育																																																															
確かな現地理解 地域基礎	<p style="text-align: center;">世界を覆う13の地域</p> <p style="text-align: center;">世界諸地域についての理解（地域基礎・スタディツアー・ショートビジットなど）</p> <p style="text-align: center;">1. 北西ヨーロッパ・北アメリカ 2. 中央ヨーロッパ 3. 西南ヨーロッパ 4. イベリア・ラテンアメリカ 5. ロシア 6. 中央アジア 7. 東アジア 8. 東南アジア第1（島嶼部） 9. 東南アジア第2（大陸部） 10. 南アジア 11. 中東 12. アフリカ 13. オセアニア</p>																																																																				
現場対話能力 言語と運用法	<p style="text-align: center;">国際共通語（GLIP 英語科目）と多様性を広げる教養外国語</p> <p style="text-align: center;">27の専攻言語（土台）＋世界の諸言語</p> <p style="text-align: center;">1. 英語 2. ドイツ語 3. ポーランド語 4. チェコ語 5. フランス語 6. イタリア語 7. スペイン語 8. ポルトガル語 9. ロシア語 10. ロシア語およびウズベク語 11. モンゴル語 12. 中国語 13. 朝鮮語 14. インドネシア語 15. マレーシア語 16. フィリピン語 17. タイ語 18. ラオス語 19. ベトナム語 20. カンボジア語 21. ビルマ語 22. ウルドゥー語 23. ヒンディー語 24. ベンガル語 25. アラビア語 26. ペルシア語 27. トルコ語</p>																																																																				

2. 国際社会学部の4年間

国際社会学部の13の地域／27の専攻言語

皆さんは入学とともに専攻する地域と言語をもちます。自らの地域と言語を大切に、大学での学びを組み立てて下さい。



入学から卒業まで

皆さんの履修する授業は「世界教養プログラム」と「専修プログラム」に分けられます。世界教養プログラムは言語文化学部、国際日本学部と共通のカリキュラムです。専修プログラムは国際社会学部独自の授業で構成されています。ここでは大まかな枠組みだけを示しますので、授業の取り方は『履修案内』をよく読んでください。

卒業までには定められた単位を修得する必要があり、これを卒業所要単位といいます。3年次への進級のためには2年次の終わりまでに一定の単位を修得する必要があり、これを進級要件といいます。

卒業所要単位と進級要件は以下の表の通りです。言語科目の単位は専攻地域によって異なるので、『履修案内』で確認をしてください。専修プログラムの「導入科目」「概論科目」「専門科目」については、3年次から所属するコースの授業の単位を一定数以上含むことが必要になります。

卒業所要単位の内訳

注：この卒業所要単位の内訳は2019年度以降の入学生に適用されるものです

			進級要件 単位数	卒業所要 単位数	
世界教養プログラム	言語科目	専攻言語	15 ※	36 以上 ※	※言語科目の履修の仕方は地域／言語ごとに異なります。『履修案内』や所属する専攻言語が定める「履修の注意」をよく確認し、担当教員の指示にしたがって履修してください
		諸地域言語			
		教養外国語			
	地域科目	GLIP 英語科目	-		
		地域基礎	6	6 以上	
基礎科目	基礎リテラシー	1	1	※所属する専攻地域が定める「履修の注意」をよく確認し、担当教員の指示に従って履修してください	
	基礎演習	2	2		
	教養科目	教養科目	-		16 以上
専修プログラム	導入科目	導入科目	8	8 以上	所属したコースから2単位以上
		概論科目	-	6 以上	
	専門科目	講義科目（専門演習）	-	24 以上	所属したコースから12単位以上
		本ゼミ	-	4	※指導教員の専門演習が本ゼミ
		卒業研究演習	-	4	
卒業研究			-	8	
関連科目			-	0 以上	他学部・他大学の授業は関連科目の単位になります
卒業所要単位数 合計				125 以上	

コースとゼミの選択【2年次 春学期】

2年次の春学期終了時には、皆さんの希望にもとづいてコースとゼミが決まります。2年生春学期の早い時点から、コースとゼミを選ぶための説明会や意向調査が始まります。コースは自分が何を専門的に学びたいかによって選択します。選択するコース・ゼミについては1年次から考え始めるようにしましょう。とくに導入科目、教養科目の履修に際しては、2年次以降で専門的に学びたいことを意識して、関連の深い授業を履修するように心がけて下さい。

国際社会学部の3コース

■地域社会研究コース

対象とする地域の時間軸（歴史）と空間軸（地図）を柔軟な視点で捉える方法を身につけ、地域にかかわりながらそのリアルを学ぶコースです。



■現代世界論コース

哲学、政治学、ジェンダー論、レイシズム・スタディーズなどのオーソドックスかつ最先端の研究に触れながら、現代世界の諸問題を批判的に考察する方法を学ぶコースです。

■国際関係コース

社会科学の方法論を体系的に学び、法学、政治学、経済学、国際協力論などの学問分野を専門的に学修し、国際社会を生き抜く知的技術を身につけるコースです。

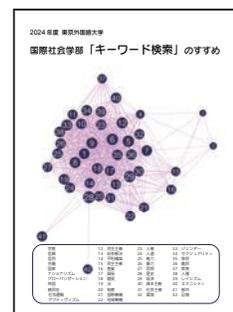


専門授業の柱となる42のキーワード

国家	ナショナリズム	グローバリゼーション	帝国	植民地
社会運動	アクティヴィズム	民主主義	紛争解決	平和構築
貿易	貧困	開発	法	制度
権力	暴力	思想	歴史	宗教
経済	資本主義	社会主義	環境	都市
ジェンダー	セクシュアリティ	人種	レイシズム	エスニシティ

国際社会学部で学べることを42のキーワードにまとめてみました。気になるキーワードでシラバスを検索し、国際社会学部でどんな授業が開講されているか、調べてみてください。「国際社会学部『キーワード検索』のすすめ」も参照してください。

シラバス検索では言語科目や教養科目の授業も調べることができます。シラバスを活用して有意義な授業計画を立ててください。



【シラバス検索の方法】

大学ホームページ→在学生の方へ→下の方にスクロールすると→シラバス検索



または、右のQRコードから
 ⇨ ⇨ ⇨ ⇨ ⇨ ⇨ ⇨
 ※詳しい検索方法は『2024年度授業時間割検索ガイドブック』も参照してください。



国際社会学部の導入科目（2024年度）

1、2年生の前半では3コースの視座を導入科目の授業で一通り学びます。国際職業人となるための幅広い土台作りを心がけ、自分だけの学びのスタイルを作り上げましょう。

春学期・夏学期開講

科目名	授業題目	担当者	学期	曜限	授業形態
歴史社会研究入門1	世界史を開く	福嶋 千穂	春学期	水4	オンライン
地域社会研究入門1	地域社会とSDCs	大石 高典	春学期	水3	対面
政治社会論入門	政治学原論——〈共に生きること〉をめぐる倫理と政治	大川 正彦	春学期	火4	対面
世界認識論入門	レイシズム・スタディーズ入門	梁 英聖	春学期	月4	対面
世界認識論入門	文化人類学入門	真島 一郎	春学期	火5	対面
社会関係論入門	Introduction to Gender	五十嵐 ミュゲ	春学期	水3	対面
社会関係論入門	労働と生存の社会学	岩館 豊	夏学期	集中	対面
法学入門1	法学入門	萩原 由美恵	春学期	金1	オンライン
法学入門1	Introduction to International Law	根岸 陽太	春学期	木4	オンライン
政治学入門1	政治分析入門	松永 泰行	春学期	火1	対面
政治学入門3	国際政治学入門	谷 一巳	春学期	未定	未定
経済学入門1	ミクロ経済学入門	菊地 和也	春学期	火4	オンライン

秋学期・冬学期開講

科目名	授業題目	担当者	学期	曜限	授業形態
地域社会研究入門2	地域研究入門	坂井 真紀子	秋学期	水4	対面
歴史社会研究入門1	現代史と映像（映画のなかの戦争）	篠原 琢	秋学期	水5、6	対面
歴史社会研究入門2	歴史学入門	巽 由樹子	秋学期	水3	オンライン
政治社会論入門	政治学原論——倫理と環境正義	大川 正彦	秋学期	火4	対面
世界認識論入門	Cultural Studies	フィゲロア	冬学期	集中	オンライン
社会関係論入門	ジェンダー論入門	竹田 恵子	秋学期	月4	対面
法学入門2	民法総論	鈴木 美弥子	秋学期	火5	オンライン
政治学入門2	政治学基礎（政治制度・政治過程）	若松 邦弘	秋学期	月4	対面
政治学入門3	国際政治経済学概論	藤田 将史	秋学期	金5	オンライン
政治学入門3	国際政治学基礎	小林 周	秋学期	金5	オンライン
経済学入門2	マクロ経済学入門	入谷 聡子	秋学期	水4	オンライン

※3コースを色分けしてあります。時間割や授業形態が変更になる可能性もありますので、シラバスや学務情報システムをこまめにチェックしてください。



国際社会学部で社会を学ぶ

■インターンシップ

就職活動につながるインターンシップ以外にも、広く社会や仕事を知るためのインターンシップの機会が用意されています。海外でのインターンシップの機会もあるので、積極的に参加してください。

■公務員試験対策授業

国際社会学部では、国家公務員総合職試験の受験科目区分に対応した授業がそろっています。外務省専門職、地方公務員の試験にも対応しています。

■ボランティア活動

ボランティア活動スペース VOLAS（研究講義棟 2階 206室）では、大学を飛び出し、さらには日本も飛び出して活動する、学生のさまざまなボランティア活動を支援しています。



Welcome Messages

藤田 侑里 さん

東南アジア／インドネシア語
現代世界論コース所属予定
2年生

くりふ府中支部の活動場所で

新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。

私は、東京外国語大学ボランティアサークル

くりふに所属し、外国にルーツをもつ小中学生に日本語支援や学習支援をしています。最初はボランティアに強い興味があったわけではなく、新歓で話を聞いて、面白そうだなというくらいの気持ちでした。しかし、担当生徒の日本語の上達を実感したり、関係性が深まって色々な話をしたりと、徐々にくりふでの時間が大切なものになっていきました。

くりふでの活動は大学の勉強の軸にもなっています。大学では、教育や多文化共生についての授業を中心に履修しているのですが、学びが実践できる場があるからこそ、学ぶ意欲が湧きますし、学ぶことが面白いと実感できます。

昨年度は、ボランティア活動スペース VOLAS の方々をはじめ、多くの方のご協力のおかげで、外大近くにくりふの新支部をスタートすることもできました。皆さんも、何か始めたいことがあったら VOLAS の方々が協力してくれますし、VOLAS では様々なボランティアの情報を知ることができます。明確な目標がなかった私にボランティアが大きな意味を与えてくれたように、ボランティアから広がる可能性もあるので、少しでも興味があればぜひ挑戦してみてください。



竹田 恵子 先生

現代世界論コース

新入生のみなさん、ご入学おめでとうございます。新しい旅のはじまりですね。

大学で学べる学問、というものは、みなさんの経験と知識の幅を大きくして人生を豊かにします。人生が豊かになるということは、かなりシンプルな言い方をすれば「喜びが増える」ということです。自分一人で経験できることには限りがありますが、学問は何千人・何万人の経験と知識の集積なのです。

本学ではとくに、多様な地域の学問や言語、価値観を学ぶことができます。それは、自分一人が経験できることの「外」に出て、自分とは全く違う立場の人の経験と考えを知ることができる、ということです。私たちは自分と違う立場の人の気持ちを想像するのは難しいのですが、本学では、比較的そういった機会を持てると思います。

みなさんが日々接する大学教員たちはその道の専門家で、普段はなかなか出会えるものではありません。ぜひ大学に在籍している間に、先生方から学べるものを学びつくしてください。その経験は、みなさんの人生の節目や迷ったときなどに、暗闇で見る星のような役割を果たすと思います。星を読むことは、旅人が自分のいる位置や、進むべき方向を知るためのもっとも基本的な方法です。

よい旅を、お祈りしています。

よい旅を、お祈りしています。





国際社会学部で世界を学ぶ

■留学

ショートビジット、派遣留学、休学留学など多様な留学の機会があります。1年生の夏学期から参加できるプログラムもあります。

■英語による授業

英語によって行われる授業は世界教養プログラムのGLIP 英語科目のほか、専修プログラムでも多く開講されています。世界中から外語大に学びにきている留学生と交流するチャンスでもあります。

■メディア翻訳

専攻言語によっては、メディアの翻訳を通して現地理解と語学力を高める授業も行われています。翻訳された記事の一部は「日本語で読む世界のメディア」で公開されています。 ⇨ ⇨



Welcome Messages

内田 かぐ美 さん

中東 / アラビア語

国際関係コース

中山裕美ゼミ・4年

新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。

メディア翻訳の授業では、皆さんの専攻地域の言語で書かれた現地の報道機関の記事から自分の関心のある記事を選択し、翻訳する授業です。この授業の魅力は二つあります。

一つ目は言語能力を向上させることができる点です。この授業では、記事を精読・翻訳した後、プロの先生に添削していただきます。そういった精読・翻訳と添削後の復習を繰り返すプロセスを通じて確実に読解力を上げることができます。添削の先生方には疑問点を質問することができ、とても効果的な勉強になります。二つ目は専攻地域の専門性を磨くことができる点です。記事を翻訳する際に欠かせない下調べや、日本・欧米のメディアが取り上げないような記事を扱うことで専攻地域で起きていることをより詳細に知ることができます。同時に、現地の生の声に触れることで言語学習のやりがいも感じることができます。このように、メディア翻訳の授業は文法や読解の授業で培った知識を発揮する場であると同時に、自分の関心の幅を広げたり、理解を深めたりすることができる、とても魅力的な授業です。また、一部の語科は翻訳した記事を一般に公開しているので、ぜひ「日本語で読む世界のメディア」で調べてみてください！

ボランティア活動をしていたエルサレムでの一枚です。奥に見えるのが世界遺産に登録されている旧市街（エルサレムの旧市街とその城壁群）です。



コロンビア、サレントのパジェ・デ・ココラ。あるディズニー映画の舞台になりました。

新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。大変だった受験勉強が終わり、これから始まる新たな生活に、期待でいっぱいなのではないでしょうか。

私はコロンビアのメデジンに1年間派遣留学へ行きました。

メデジンは十数年前まで国内紛争により、世界で1番危険な街と称されていました。しかし現在は交通インフラの整備により劇的に治安が改善したという、とても興味深い歴史があります。私は中学生の頃から国際支援に携わることが夢でした。しかし「途上国」と呼ばれる国を実際に見るまで「途上国支援がしたい」とは言えないと考えていた私に、留学生活は大きな気づきを与えてくれました。それは、コロンビア人はコロンビアのことが大好きだということです。もちろん格差は激しく治安もまだ悪いです。実際、コロンビア人の友人が路駐した車の窓ガラスが割られ、友人のカバンが捕られたこともありました。でも友達は全員「コロンビアは世界1の国」というし、私もコロンビアの持つ歴史、自然、人の素敵さに今でも魅了されたままです。そして、私は「支援」ではなくてその国が持つ価値を引き出し、発展に「協力」したいのだと確信しました。その中で、私も日本も学ぶことがたくさんあるはずです。恐れず新しい世界に飛び込んでみてください。皆さんが今持っている期待以上の経験が必ずあります！

今村 早李 さん

ラテンアメリカ / スペイン語

国際関係コース

中山裕美ゼミ・4年

3. 履修にあたっての注意点と履修モデル

4年間の履修の流れ



■ 1、2年次の履修計画を立てるときのポイント

1. 時間割を詰め込みすぎない！ (大学の授業は予習・復習・課題がもれなくついてくる)
2. 進級に関わる必修科目は特に注意 (専攻言語、地域基礎、基礎リテ、基礎演習は基本)
3. 専攻言語と地域基礎は担当教員の指示に従い、「履修の注意」※の通りに履修しましょう
4. 導入科目はバランスよく学んでください (希望のコース・ゼミに進めるとは限らない)
5. 教養外国語は2年生から履修がおすすめ (新しい外国語を複数学ぶのはたいへんです)

■ 無事卒業するために忘れないで欲しいポイント

1. 言語科目の卒業所要単位は **36 単位** 以上です (語学は1コマ1単位。けっこう多いです)
2. 必修の GLIP 英語/教養外国語は取り方にルールがあります (本当に本当に要注意)
3. 必修の言語以外に一定数の選択必修の語学の単位を修得する必要があります
4. 導入・概論・専門科目は所属コースの科目から一定数の単位を修得する必要があります
5. 自分の入学年度の『履修案内』※にしたがって履修してください (年度によって異なる場合あり)
6. 所要の 125 単位ピッタリで卒業しようとしなないでください！ (取りこぼすと挽回不能です)

※『履修案内』、「履修の注意」は大学 HP →学部・大学院 / 教育
→国際社会学部→学部生活ナビ～履修・授業・相談窓口～



Attention!

各授業の成績評価にかかわる「試験」は、授業内の小テスト、レポートや期末試験などさまざまな方法で行われます。そのいずれにおいても、不正行為はしてはいけません。成績評価については各授業ごとにルールがあります。教員の指示をよく聞いて試験に臨みましょう。不正行為が確認された場合、同一学期あるいはその年度に受講した全ての科目の成績が不合格になることもあります。

コース別履修モデル

では、具体的にどのように授業を履修したらよいのでしょうか。
 ここでコース別の履修モデルを紹介します。履修計画を立てる
 参考にしてください。もちろん、興味や希望する進路、また専
 攻地域や専攻言語によって履修内容は人それぞれです。自分な
 りの外大生活を組み立ててください。



地域社会研究コース

1~2年次：専攻語の運用能力を高めると同時に、専攻地域に応じた「地域基礎」を必ず履修し、地域の歴史・社会を詳しく学びます。導入科目を広く履修し、幅広い土台作りを心掛ける時期でもあります。

3~4年次：それまでに修得した語学を武器に、地域に関する知識を深めつつ、ゼミを中心に「専門知」に磨きをかけていきます。多くの学生が留学プログラムに参加するなど、「専門知」の学びの場は世界に広がります。

1年生	2年生	3年生	4年生
AS Model 1 北西ヨーロッパ・北アメリカ地域 × 歴史 「ヨーロッパの歴史を深く探求したい！」			
専攻言語Ⅰ (英語Ⅰ) ショートビジット リーズ大学 (英)	専攻言語Ⅱ (英語Ⅱ) 教養外国語 (ドイツ語)	専攻言語Ⅲ (英語Ⅲ) 教養外国語 (ドイツ語)	教養外国語 (スペイン語)
プリテン諸島と近世ヨーロッパ 連合王国の近現代史 ジェンダーから考える近現代アイルランド史	ジェンダーから読み直すアメリカ史 (1) アメリカ論をよむ 周縁から考えるグローバル・ヒストリー	19・20世紀の西洋/スペイン美術史 感情史の理論と実践 ハプスブルグ帝国史研究 Iberian Studies	歴史映画にみるポーランド近世 近世スペイン美術史 ジェンダーと高等教育 感情史とは何か ヨーロッパ国際関係史
歴史学入門 ジェンダー論入門 世界史を開く	現代史と映像 国際政治学入門 歴史資料体論 国際政治理論	西欧現代政治論 ユートピアと社会契約 歴史から教訓は学べるか	*進路* 出版社*
基礎リテラシー・基礎演習 教養科目	教養科目	専門演習 「近代イギリスの政治・社会・文化」	卒論演習 卒論テーマ～戦間期イギリスの政治と社会～
AS Model 2 東アジア地域 × 現代社会 「経済大国中国のリアルが知りたい！」			
専攻言語Ⅰ (中国語Ⅰ) GLIP 英語	専攻言語Ⅱ (中国語Ⅱ) GLIP 英語 ショートビジット 北京語言大学 (中)	専攻言語Ⅲ (中国語Ⅲ)	教養外国語 (朝鮮語)
現代中国の政治・経済・社会 中国の伝統と現代 中国の輪郭を知る	地域社会と経済生活 ナショナリズムとイスラム主義 香港と中国の歴史	中台関係論 現代台湾政治 東アジアポピュラー文化の越境移動 現代中国経済論	朝鮮戦争を考える 解放期南北朝鮮の政治と社会 国際経済学Ⅰ・Ⅱ 東アジアの経済発展と開発経済学
地域研究入門 地域社会とSDGs レイジズム・スタディーズ入門	歴史学入門 グローバルスタディーズの経済思想史	国際金融概論 貿易と直接投資 近代日本の思想とアジア	*進路* IT関連*
基礎リテラシー・基礎演習 教養科目 山形スタディーツアー	教養科目	専門演習 「中国・香港の歴史と社会」	卒論演習 卒論テーマ～慰安婦問題と東アジア地域～
AS Model 3 イベリア・ラテンアメリカ × 女性 「途上国の女性の地位向上のために働きたい！」			
専攻言語Ⅰ (スペイン語Ⅰ) GLIP 英語	専攻言語Ⅱ (スペイン語Ⅱ) GLIP 英語	専攻言語Ⅲ (スペイン語Ⅲ)	教養外国語 (ポルトガル語)
ラテンアメリカ政治経済入門 ブラジル地域研究入門 美術・建築からみるスペイン史	ジェンダーから読み直すアメリカ史 (1) 周縁から考えるグローバル・ヒストリー ジェンダー史概論	伝統とともに今を生きる先住民民族マヤ ブラジルの人と社会 国際社会の中のブラジル 近現代ベトナムの性と政治	ジェンダーと高等教育 カナダの歴史 アフリカ人類学 国際法 実務的側面から見た国際機関
地域研究入門 地域社会とSDGs ジェンダー論入門	現代史と映像 クイア・スタディーズ	国際法概論 Gender and Globalization ジェンダーとキャリア形成の国際比較	*進路* 海外大学院*
基礎リテラシー・基礎演習 教養科目 国連スタディーツアー	教養科目	専門演習 「アメリカ地域研究演習」	卒論演習 卒論テーマ～米墨国境での移民女性への暴力～
AS Model 4 アフリカ地域 × 貧困 「現地と国際社会、双方の視点から貧困問題を考えたい！」			
専攻言語Ⅰ (英語Ⅰ) 諸地域言語	専攻言語Ⅱ (英語Ⅱ) 教養外国語 (フランス語)	専攻言語Ⅲ (英語Ⅲ) 教養外国語 (フランス語)	教養外国語 (ポルトガル語)
アフリカ地域研究入門Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ	周縁から考えるグローバル・ヒストリー 地域社会と経済生活 中東/西アジア・北アフリカ地域基礎	民族誌から学ぶアフリカの生活世界Ⅰ アフリカと開発 アフリカ文化論 アフリカ人類学	民族誌から学ぶアフリカの生活世界Ⅱ アフリカの宗教とエスニシティ アフリカ農村社会学 アフリカ開発援助政策 開発経済学
地域研究入門 地域社会とSDGs 文化人類学入門	グローバルスタディーズの経済思想史 マクロ経済学入門 国際金融概論	国際経済学 国際協力論 紛争後社会と和解	*進路* コンサルティング*
基礎リテラシー・基礎演習 教養科目 山形スタディーツアー	教養科目	専門演習 「アフリカ地域ゼミ」	卒論演習 卒論テーマ～アフリカの貧困と投資～
AS Model 5 中央アジア地域 × ロシア地域 × 中東地域 「世界を学び尽くしたい！」			
専攻言語Ⅰ (モンゴル語Ⅰ) GLIP 英語	専攻言語Ⅱ (モンゴル語Ⅱ) 教養外国語 (ロシア語) ショートビジット モンゴル国立大学 (モ)	専攻言語Ⅲ (モンゴル語Ⅲ) 教養外国語 (ロシア語)	教養外国語 (アラビア語)
モンゴルの遊牧と前近代史 近現代のモンゴル 「伝統文化」と民主化	ロシア・中東・中央アジアの言語・文化・社会 ナショナリズムとイスラム主義 モンゴル近現代史 (2)	国際関係の中のイラン モンゴル近現代史 (1) 中央アジア概説 ソ連経済の歴史 現代ロシア政治・外交・軍事安全保障	中央アジアにおける中露外交の歴史 ユーラシア諸国の政治と国際関係 イスラム世界と「技術」 アラブ地域政治事情
歴史学入門 世界史を開く レイジズム・スタディーズ入門	政治分析入門 国際秩序論	紛争解決論 歴史から教訓は学べるか	レイジズム・スタディーズ *進路* 商社*
基礎リテラシー・基礎演習 教養科目	教養科目	専門演習 「モンゴル地域研究演習」	卒論演習 卒論テーマ～20世紀ユーラシアと社会主義～

現代世界論コース

CG Model 1 中央ヨーロッパ地域 × 環境「環境先進国ヨーロッパの経験から学びたい！」

専攻言語 I (ドイツ語 I) GLIP 英語	専攻言語 II (ドイツ語 II) 教養外国語 (フランス語)	教養外国語 (フランス語)	教養外国語 (イタリア語)
ドイツ・ヨーロッパ中世史 ドイツ語圏の文化 考える世界史	ドイツ近現代史 中東欧国際関係史 政治学原論－倫理と環境正義 グローバルスタディーズの経済思想史 歴史資料体論 国際政治学入門	現代ヨーロッパにおける戦争の記憶 現代世界論概論 I A 自然と人間の社会史 環境保全論 I・II 環境保護・脱原発のドイツ・ヨーロッパ史	感情史の理論と実践 ドキュメンタリー映画論 感情史とは何か 歴史から教訓は学べるか 西欧現代政治論
基礎リテラシー・基礎演習 教養科目	教養科目	専門演習 「環境保全論演習」	卒論演習 卒論テーマ～ヨーロッパにおける環境意識の変遷～

CG Model 2 東南アジア第1地域 × ジェンダー「エンタメ産業におけるジェンダー問題を考えたい！」

専攻言語 I (フィリピン語 I) GLIP 英語	専攻言語 II (フィリピン語 II) GLIP 英語	専攻言語 III (フィリピン語 III)	教養外国語 (韓国語)
フィリピン研究入門 1 フィリピン研究入門 2 東南アジア研究入門	ジェンダー史概論 東南アジア地域研究特論	島嶼東南アジア政治経済社会史 東南アジアの物質文化 近現代ベトナムの性と政治	医療から見るベトナム近現代史 森崎和江とフェミニズム ジェンダーとキャリア形成の国際比較 ドキュメンタリー映画論 自由論
基礎リテラシー・基礎演習 教養科目	教養科目	現代世界論概論 I A ケアの理論と政治理論 日常生活とつながるジェンダー 1・2 専門演習 主:「社会学専門演習」副:「ジェンダー論演習」	卒論演習 卒論テーマ～アジアにおける女性とエンタメ～

CG Model 3 西南ヨーロッパ地域 × 移民・教育「移民の子どもたちを笑顔にしたい！」

専攻言語 I (フランス語 I) GLIP 英語	専攻言語 II (フランス語 II) GLIP 英語	専攻言語 III (フランス語 III)	教養外国語 (アラビア語)
パリ市を通して見るフランス社会 フランス史概説 History of Contemporary France	アフリカ地域研究入門 ナショナリズムとイスラーム主義	近世フランスにおける民衆の経験を考える 「境界」としてのイタリア 私たちのアナキズム研究 「教育問題」と社会学 国際社会学 移民と国家の社会学 感情史とは何か	アフリカ文化論 レイシズム・スタディーズ 1・2 市民権/国籍の政治社会学 国際教育論 紛争後社会と和解
基礎リテラシー・基礎演習 教養科目	教養科目	現代史と映像 政治学原論－倫理と政治 レイシズム・スタディーズ入門 専門演習 「国際社会学演習」	卒論演習 卒論テーマ～移民の子どもとフランス社会～

国際関係コース

IR Model 1 オセアニア地域 × 国際法「先住民の権利の問題を SDGs の観点から考えたい！」

専攻言語 I (英語 I) GLIP 英語	専攻言語 II (英語 II) 諸地域言語	教養外国語 (フランス語)	教養外国語 (イタリア語)
オセアニア地域基礎 オセアニアの歴史と社会 (1)(2)	周縁から考えるグローバル・ヒストリー 地域研究入門 SDGs 国際法概論 ミクロ経済学入門 国際法総論 グローバルスタディーズの経済思想史 Theory and Practice of United Nations	「先住民(族)」からみる 「先住民」から考える 国際秩序論 国際法 I・II 国際法事例研究 グローバル・ガバナンス論と難民・移民	カナダの歴史 実務的側面から見た国際機関 開発経済学 比較福祉政治 現代社会論
基礎リテラシー・基礎演習 教養科目	教養科目	国際政治学入門 民法総論 レイシズム・スタディーズ入門 専門演習 「国際法演習」	卒論演習 卒論テーマ～先住民の権利保護と持続可能な開発～

IR Model 2 南アジア地域 × 国際政治「外交官として日本と外国を繋ぐ架け橋になりたい！」

専攻言語 I (ヒンディー語 I) GLIP 英語	専攻言語 II (ヒンディー語 II) GLIP 英語	専攻言語 III (ヒンディー語 III)	教養外国語 (アラビア語)
南アジア研究入門 1 南アジア研究入門 2 パキスタン研究入門 1	パキスタン・アフガニスタン研究入門 ナショナリズムとイスラーム主義 国際政治経済入門 国際安全保障論 政治分析入門	アフガニスタン・パキスタン 近現代政治社会史 1・2 国際法概論 地域主義比較分析 国際法 I・II 日本外交論	インド・パキスタン分離独立論 1・2 アラブ地域政治事情 紛争解決論 ゲーム理論 1 ヨーロッパ国際関係史
基礎リテラシー・基礎演習 教養科目	教養科目	国際政治学入門 世界史を開く 政治学原論－倫理と政治 外交官等 国家・地方公務員プログラム 専門演習 「国際協調」	卒論演習 卒論テーマ～インド太平洋をめぐる国際政治～

IR Model 3 東南アジア第2地域 × 経済「グローバル・バリューチェーンの課題について考えたい！」

専攻言語 I (タイ語 I) GLIP 英語	専攻言語 II (タイ語 II) 教養外国語 (中国語)	専攻言語 III (タイ語 III) 教養外国語 (中国語)	教養外国語 (朝鮮語)
タイ研究入門 1・2 東南アジア研究入門	地域社会と経済生活 現代東南アジア経済論 国際政治経済入門 貿易と直接投資 国際金融概論	ラオス経済論 タイ政治経済論 クアア史の探究 開発経済学 国際経済学 1 ビジネス法 ラテン・アメリカの経済発展と開発経済学	現代中国経済論 1・2 環境保全論 1 国際経済学 2 開発経済学と東南アジア地域研究
基礎リテラシー・基礎演習 教養科目	教養科目	ミクロ経済学入門 地域研究入門 マクロ経済学入門 専門演習 「国際経済論」	卒論演習 卒論テーマ～アジア経済とバリュー・チェーン～

● は地域基礎 (必修)、● は地域社会研究コース、● は現代世界論コース、● は国際関係コースで開講されている授業を指します。丸印のなかの「入」は導入科目、「概」は概論科目、「専」は専門科目を意味します。
注: モデル内で紹介された授業科目名は 2018 年度から 2023 年度までの授業時間割に基づきます。年度によって、当該授業が開講されない場合や開講学期が異なる場合、科目名が変更される場合もあるので注意しましょう。
言語科目と地域基礎科目は専攻地域によって履修方法が異なります。詳細は履修案内等を確認しましょう。教養科目は 1 年次・2 年次にそれぞれ 4～5 コースずつ履修すると良いでしょう。
留学は制度によって、在学期間 4 年で卒業できるケースと、そうでないケースがあります。詳細は留学案内を確認しましょう。



授業の選択に不安がある時は……
履修相談コーナーへ！ 教員が相談のります
4月8日(月) 11:00-12:30 / 4月9日(火) 11:00-12:30
本部管理棟 2階大会議室

4. 学内活動紹介

大学には授業以外にもサークル活動などさまざまな課外活動の場があります。7 ページで紹介した VOLAS の活動もそのひとつです。ここでは学内行事や大学の企画など、大学と連携した活動に参加している先輩方の声を紹介します。皆さんも興味のある課外活動に積極的に参加してみてください。

福田卓矢さん
北アメリカ / 英語
国際関係コース所属予定
2年生

タイ旅行で訪れたワットアルンで

新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます！長い受験生活が終わり、今から始まる大学生活にワクワクしていることと思います。私は現在男子サッカー一部の部長を務めております。大学のサッカー部では珍しく、サッカー以外の活動も充実していることが私たちの特徴です。部員の主体性を何よりも尊重しており、昨年の10月には部員の提案から地域向けに英語 & サッカー教室を開催しました。200名近くの方に参加していただき、地域の方々と楽しく交流しました。また、留学生と交流がしたいという提案をもとにフットサル同好会を設立しました。留学生と月に2回ほど楽しくフットサルをしています。入学当初は「大学でも部活に入るのはしんどいな」と思っていたのですが、今はサッカー部に所属してよかったと心から感じています。今年はグラウンドが人工芝になることもあり、素晴らしい環境でサッカーをすることができます。経験者だけでなく初心者も活躍しています。また、プレイヤーでなくても、サッカー以外の地域貢献活動や SNS 運用、スポンサー活動など様々な活躍の場があります。大学生の間に本気で何かに取り組んでみたい方、自分のやりたいことを実現したい方はぜひ一緒に活動しましょう！外大の部活に所属して、外大のみならず地域全体を盛り上げていきましょう！

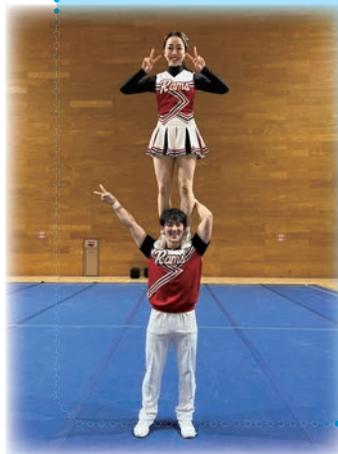


川田 恵太さん
西南ヨーロッパ / フランス語
国際関係コース
中山裕美ゼミ・4年

新入生の皆様、ご入学おめでとうございます！

私はチアリーディング部 RAMS に所属し、部長やチームキャプテンなど様々な役職を経験させて頂きました。みなさんは大学でなにが打ち込みたいことは決まっ

ていますか？私は部活動をおすすめします。大学生になってまで部活動？と思う方もいるかもしれませんが、大学生は本当に自由でたくさんの時間があります。だからこそ、仲間と共に高い熱量で思いっきり打ち込める部活動に取り組むことをおすすめします。



簡単にチアリーディング部 RAMS の紹介をしたいと思います。そもそもチアリーディングとは組体操技術であるスタンツ、宙返りなどのタンプリング、ジャンプ、ダンスなどの要素から成り立っていて、その難易度、同調性や表現力を競う競技です。RAMS は一昨年は全日本大学選手権で10位入賞、昨年は全日本大学選手権で男女混成部門優勝、総合5位入賞を果たしました。こう聞くと遠い存在に見えてしまうかもしれませんが、ほとんどの部員が大学からチアを始めています！男性に関しては全員が初心者からのスタートです。私自身も大学から始めて全国優勝チームのキャプテンという経験をさせてもらいました。

こんな素晴らしい経験をできるような部活動が外大には沢山あります。みなさんも貴重な大学生活を充実させるために是非部活動に挑戦してみたい方はぜひ参加してください。

第101回外語祭のチアリーディング部公演にて



五十幡 汐涼 さん
西南ヨーロッパ/イタリア語
国際関係コース
出町ゼミ・3年

新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。
外語祭は毎年11月に5日間にわたって開催され、1年生による料理店や2年生の語劇などをはじめとする外大の魅力を堪能できる企画が行われる唯一無二の学園祭です。

私は、そんな外語祭を運営する外語祭実行委員会に3年間所属し、昨年度の第101回外語祭においては委員長を務めておりました。外語祭実行委員会は管轄ごとに7つの局に分かれており、1年かけて1から自分たちで外語祭の成功を目指し語科や学年の垣根を超え一丸となって創り上げています。外語祭は外大生だけでなく周辺地域にお住まいの方や受験生の方など沢山の方々にご来場いただいております、やりがいもひとしおでした。私自身、中学・高校では学園祭の運営に関わった経験はなく、今までとは違った経験がしたいと飛び込みました。私にとって外語祭実行委員会での3年間は代え難い最高の思い出で、後悔はありません。大学生活は新しいことに挑戦することのできる良い機会です。一步を踏み出すのは勇気が入りませんが、きっとその先には充実した大学生活が待っていると思います。みなさんの大学生活が後悔なく素敵なものとなることを心から祈っています。

外語祭最終日に行うフィナーレでの委員長挨拶



第101回外語祭 (2023年11月)



Welcome Messages

片岡 真輝 先生
国際関係コース

新入生の皆さん、入学おめでとうございます。期待に胸を膨らませた大学生活がいよいよ始まります。しかし、どのような大学生活を送ったら良いか、まだ漠然としている人もいるかもしれません。そこで私のことを少しお話しします。



大学の先生には若いころから勉強と研究にどっぷり浸かってきた人が多そうですが、私はそのような生活とは無縁でした。本格的に勉強しようと思ったのは社会人になってから。いくつか仕事を変えながら勉強を続け、教育と研究を仕事にし始めたのは40歳を過ぎてからです。遠回りしているように見えますか？しかし、大学教員とはまったく関係のないことをやっていたサラリーマン時代の経験が、今とても役に立っています。遠回りに見えても、そこで得た知識や経験は血肉となり、将来の役に立つのです。

ちょっと自分には合わないかも。そう思うこともあるでしょう。でも反社会的なことでもないなら、とりあえずやってみてはどうですか？その経験が将来のあなたをきっと助けます。大学時代は何事にも挑戦しやすい時期です。結果もまだ気にしなくて大丈夫。色々試して豊かな経験値を稼ぎ将来の糧にする、是非そのような実りの多い大学生活を送ってください。

キャンパスで皆さんと会う日を楽しみしています。

5. 学生によるゼミ案内

～うちのゼミ紹介します！～

国際社会学部では、3年生からゼミを履修します。(注：指導教員が開講する専門演習が「本ゼミ」です。普段は「ゼミ」と呼びます) 教員の指導を受け、ゼミ仲間との議論を経ながら自分の研究を磨き、最後に卒業論文としてまとめることとなります。

…といっても、ゼミの具体的なイメージがなかなか湧かない、という学生も多いのではないのでしょうか。そこで、既にゼミを経験した皆さんの先輩の声の一部を、ここに紹介します。ゼミ生の声から、ゼミの雰囲気を感じてみてください。



(地域社会研究コース 生駒美樹ゼミ)

生駒ゼミは文化人類学の手法を学べるゼミで、主に東南アジア専攻の学生が所属しています。文化人類学はフィールドワーク調査が必要なため、ゼミでは学生が卒論のテーマに関連する文献を持ち寄り、一緒にその手法を学んでいます。生駒先生は穏やかで優しい先生で、学生の意見を肯定しつつ様々なアドバイスを提供してくれます。自分の興味がまだ明確に定まっていない方も、生駒ゼミを通して自身の新たな興味を見つけられるはずです。そしてゼミ内では、文献を読んだ後に学生がそれぞれの所属地域での事例を共有したり、身の回りの生活とも照らしながらするため、毎回刺激を受けること間違いなしです。また、生駒先生が実際に赴いたフィールドワークの経験も話してくれるため、フィールドワークの雰囲気や全体像を細かく掴むことができます。新しい見方や発見を得ながら、日々の「あたりまえ」に問いを投げ掛け合えるそんな場所が生駒ゼミです。(S.N. K.F.)

(地域社会研究コース 青木雅浩ゼミ)

青木ゼミはいわゆるモンゴル語科の語科ゼミですが、先生はロシア語や旧ソ連地域の事情にも通暁しておられます。私はロシア語科の所属で、卒論でもロシアの問題をテーマにしましたが、手厚い指導を受けることができました。モンゴルはもちろん、ロシア・旧ソ連地域について扱いたい学生にもおすすめできるゼミです。1人あたり1コマ分の時間を使って発表し、先生とゼミ生の指摘を受けながら卒論の内容と方向性を修正できます。この発表と修正の繰り返しで卒論全体の完成につながります。先生から特に念入りにご教授いただいたのは論理的整合性や問題へのアプローチについてでした。これらの点をしっかりと検討することは、どんな卒論にとっても重要です。また、私の卒論テーマは他のゼミ生にとってあまり馴染みのない分野でしたが、だからこそ説明不足の部分を客観的に指摘してもらえたことも勉強になりました。丁寧な指導と議論の場が開かれていることがこのゼミの特徴です。(中崎諒)

(地域社会研究コース 青山弘之ゼミ)

地域研究の意義、それは「劣化する智への最後の牙城」(先生の言葉をお借りして)。遠い中東の情報も日本にやってくるようになった現代社会。「内戦」「民主化」「イスラーム」といった便利な言葉によって中東の事実が歪められたり隠れたりしていませんか？このゼミでは、批判的な目も持ちながら、様々なツールを使って、中東で本当に起こっている事実を分析します。ここで使えるのが、現地の言語、文化への理解、留学や交流を通して得た人々の考え方、「肌感」です。青山ゼミでは、3年生で「テロとの戦い」や「膠着するシリア」など、先生の専門と関連した分野の本に関して議論します。4年生になると各々自分の関心あるテーマ(中東に関わっていればOK)に合わせた本を持ち寄り、議論します。と、ここまで書いてきましたが、難しい話ではありません。あなたの中東への好奇心を入り口に、中東の世界へ没入し、私たちとともにその魅力に浸ってみませんか！?(大屋千寛)

(地域社会研究コース 大石高典ゼミ)

“おいしい”(OISHI)ゼミの一番の特徴は、地域・言語に縛られず、自由に研究テーマを設定できることにあります。自分の専攻地域に限らず、今の自分にとって最も関心のあるもの(農業、民族、料理、音楽、ダンスなど)をテーマに研究を進めることができます。大石ゼミでは、「フィールドワーク」を主な手法としていますが、そのフィールドは遠く離れた海外に限りません。自分のバイト先や所属しているサークル、通い慣れている場所など、普段の生活圏がフィールドとなることもあります。「日常をフィールドワークする」という視点の土台を作るために、3年春学期にはフィールドワークに関連した書籍の輪読を行います。「ゼミ」と聞くとなんだか堅苦しく感じますが、大石ゼミには常にアットホームな雰囲気が漂っており、研究に息詰まった時には、いつでもゼミ友や大石先生に相談できる環境が整っています。のびのびとした環境で、自分のやりたいことにとことん向きあってみませんか。(小森まな)

(地域社会研究コース 菊池陽子ゼミ)

菊池ゼミは東南アジアに関するテーマであれば基本的に何でも OK。菊池先生はラオス近現代史を専門とされているので、歴史を軸に東南アジアの研究をしていきたい方にはピッタリのゼミです。授業では、植民地期のカンボジアで発行されていた新聞を読み、当時の報道のされ方や生活などについて意見交換を行いました。卒論のテーマとしては、「ミャンマーにおける教育」や「第三次中曽根、竹下政権期の日本の対ベトナム外交」など、東南アジアに関連していればそれをとことん追求できます！バラバラな専攻地域の学生が集まり意見交換をするからこそ、自分が今まで持っていなかった視点にも気づくことができるのが本ゼミの良さです。東南アジアにおける経験豊富な菊池先生のラオス愛トークを聞きたい方は是非！(平戸ゆり 神山奈々)

(地域社会研究コース 木村暁ゼミ)

木村ゼミでは主に中央アジア地域に関連する事柄について時代や学問領域を問わず、自由な研究が可能です。ゼミ生は各自卒業論文の執筆に向けテーマを設定し、授業内では各自の興味関心に基づく発表(論文批評、訳注)を行います。具体的な授業形式については相談の時間が十分に設けられており様々な形式を考えることが可能ですが、いずれも毎回の発表に向け各学生の自主性と独立性を重んじている点は本ゼミの特徴と言えます。発表の後には学生同士での質疑応答と情報共有、そして先生からの研究手法や論の組み立て、翻訳や形式に関するきめ細かなアドバイスを受けることができるため、自身の研究プロセスをじっくりと振り返りながら修正、進行してゆくことが可能です。「もうすでに卒論のテーマが決まっている」という方も、「まだ研究テーマが決まっていなくても中央アジア/旧ソ連地域の研究をしようかな」という方も互いに気負わず各自のペースで研究が可能ですので、当該地域に少なからぬ興味関心がある方はぜひ木村ゼミをご検討ください。(今井啓太)

(地域社会研究コース 久米順子ゼミ)

久米ゼミでは、最初は自由に選ぶ好きな題材について、そして徐々に卒論の執筆に向けて、担当回に行うプレゼンを通し、自分の興味関心とそれに対する理解を深めていきます。先生はご専門であるイベリア半島の中世美術史に留まらず、西洋美術史全般や建築・文化・音楽などと社会的な影響に造詣が深く、掘り下げや説明の甘かった箇所への質問や、魅力的で説得力のある切り口の補足、論理展開のバランス修正にも非常に助けになってくださいます。学生は美術・文化に関心が強い者が多く集まるものの、蓋を開けてみれば専攻言語・地域も様々で、興味関心も多岐に渡るからこそ、交流を通して思わぬ発想が生まれたり、新しい分野に触れたりできるのも魅力のひとつです。発表も卒論執筆もテーマに関する自由度が高く個人の裁量によるところは大きいですが、それに対する先生・学生からの反応は自分で向き合うだけでは得られない着眼点や膨らませ方をもたらしてくれます。(桜井七海)

(地域社会研究コース 倉田明子ゼミ)

倉田明子先生のゼミでは、主に「歴史」を軸に中国・香港地域を考えます。ただ、対象地域は上記に限定されず、シンガポールやマレーシア等、幅広く取り扱われます。ゼミ形式に関して、三年次では事前に論文を読んでレジメを作成し、授業で疑問や自分の考えを話し合います。私は「容閑一米中間で揺らぎ上昇する境界者」「中華料理のモダニティ」という論文が印象に残っています。歴史上の人物の生き方や当時に残された文献から、現在の問題を考える上での多角的な視点と知識を得られ、卒業論文を書く際に大いに役立ちました。四年次は卒論執筆が中心で、先生と相談しながら方針を決めていきます。卒論のテーマは自由。それぞれの興味関心に合わせて、卒業論文に取り組むことができます。学生個人の関心と主体性が尊重された中で学びを深めることができるゼミだと思います。「中国」「香港」「歴史」(+関連した地域やテーマ)に関心がある方、ぜひ倉田ゼミへお越しください。(相馬佳菜子)

(地域社会研究コース 鈴木義一ゼミ)

鈴木ゼミはロシアを中心とした旧ソ連圏諸国を対象とした地域研究を学ぶゼミです。政治・経済・社会・外交といった社会科学の諸分野からテーマを選ぶことができ、対象となる時代も近代から現代と幅広いのが特徴です。実際に現在所属している学生のテーマもアルメニア現代政治や帝政ロシアの民族政策、ソ連外交史など多岐にわたっています。3年春学期のゼミでは当初示された課題文献を読んで学生がそれについて発表を行い、それを基にした議論を行います。春学期終盤から秋学期は卒論を見越して課題文献の選択が各自のテーマにあわせて自由となり、議論もそれぞれの専門にあわせて深まります。そして秋学期末には卒論の予行練習として 16,000 字程度のゼミ論文を執筆し、こうした準備を踏まえて4年次には卒論執筆に取り組みます。

近現代の旧ソ連圏を対象にした地域研究を行いたい学生を鈴木ゼミは歓迎しています。(小副川将剛)

(地域社会研究コース 左右田直規ゼミ)

左右田ゼミは島嶼部東南アジア地域が専門です。教育、宗教、政治、移民、ジェンダーなど、ゼミ生の関心は様々で、発表を通して多くの切り口から東南アジアに触れることができます。ゼミではまず論文の書き方や島嶼部東南アジアの成り立ちを学び、その後は研究したい分野の先行研究を批評して卒業論文のための問いを見つけていきます。3年生の夏学期以降は、問い、研究方法、資料収集、分析方法等をまとめた、卒論の骨組みとなる卒業論文計画書を書き始めます。4年生の春学期頃になると、いよいよ卒論を書き始め、個別指導を通してブラッシュアップしていきます。以上の一連のゼミの活動を通して批判的思考力や論理的思考力を養うことができ、また先生や同期、先輩のコメントから自信の視野を広げていくことができます。卒業論文を書き上げた後は以前より一回り成長したと感じられるのではないのでしょうか。満足の行く卒業論文を書きたい方、東南アジアに興味のある方におすすめのゼミです！(大竹未来)

(地域社会研究コース 巽由樹子ゼミ)

巽ゼミではロシア史に関する文献や一次史料を批判的に講読・分析することを通し、研究手法を身に付けていきます。巽先生が指定した文献を読み込み、各自の担当の回に文献の内容や考察を発表し、議論を行っていくという授業形式です。ソ連時代の雑誌の現物を各自で選び分析することも！

3年冬頃から卒論テーマを決め始め、4年秋から本格的に執筆していきます。効率的な文献の探し方や参考文献の書き方から、研究に必要な基本的要素の丁寧な指導を受けることができます。卒論テーマは、自分の興味関心に沿って選択できます。そのため、本ゼミ生の卒論テーマは文学や料理、宗教や政策など多岐に渡ります。自由自在に研究テーマを設定でき、他のゼミ生の発表を聞くことを通し他分野のことも知ることができるのも巽ゼミの魅力の一つです。現在刻一刻と情勢が変化するロシア地域について(でなくても)、新たな発見をするチャンスをぜひ巽ゼミで掴んでください！(鈴木美佳)

(地域社会研究コース 千葉敏之ゼミ)

私が千葉ゼミを通して得たものは、本気で学問に向き合ったという自信と、知ることの喜びだといえます。そしてその考えは卒業して5年が経った今も変わらないままです。千葉ゼミでは、毎講義に中世ヨーロッパ世界との新たな出会いがあります。そしてその出会いを最も喜び、最も真剣に向き合っているのは千葉先生といえるでしょう。ゼミ生はそんな先生の姿をみて、新たな知を得る機会は皆に平等に与えられていること、それから、純粋な知的探求の喜びを知ることになります。千葉ゼミを通して体得する、文献の読み方・史実の捉え方・考察の論じ方、すなわち歴史を自分なりに解釈する方法、その作法は生涯を通じてあなたの武器であり、新たな知という喜びをもたらす財産になります。卒業後、エレクトロニクス企業に勤め、現在は縁あって南米に暮らす私自身、新たな世界に触れる度にそのことを実感しています。是非あなたにも、自身の知的好奇心の赴くままに、先生と共に中世ヨーロッパ世界に没入する、そんな千葉ゼミでしかできない経験をしてほしいと思います。(中野遥香)

(地域社会研究コース 登利谷正人ゼミ)

南アジアは経済発展を続け、急速に市場が拡大しているブルーオーシャンです。登利谷ゼミで南アジアについて深く学び、日本と南アジアを繋ぐ国際人材を目指しませんか？私たちのゼミでは、主にパキスタンやアフガニスタン、インドを中心に、歴史、経済、文化など、様々なトピックを学生自身が選択しながら学びを深めることができます。日々のゼミ活動では、南アジアに関係のある論文や書籍を輪読し、先生の解説を参考にしながら議論を深めています。また、定期的に、ゼミ生自身が自由に選択したトピックについて相互発表会を実施しています。基本的に少人数のゼミで、先生と生徒の距離が近いことも特徴です！そのためゼミでの学びや卒業論文の方向性のみならず、私生活や履修に関する相談も気軽にできる環境です！私たちのゼミに入って、南アジアを共に楽しく学びましょう！ゼミ生一同、新たな仲間をお待ちしております！！(東佑太、古田花梨)

(地域社会研究コース 藤井豪ゼミ)

藤井ゼミは朝鮮近現代史を扱うゼミですが、フェミニズムやマイノリティへの差別など、様々な関心を持つ学生が集まっています。ゼミでは、他者との対話の中で自分の考えを言語化することを大切にしています。毎週課題文献を読み討論を行います。何気ない会話から自分の考えが実は固定観念に満ちたもの、あるいは他者を無意識に傷つけるものであった、と気付く時があります。日本で朝鮮を語ることがタブー視される中、こうして自分の思考過程に向き合うことは「なぜ朝鮮に興味を持つのか」を問い直す機会になります。また、自分は他者とどう関われるかを自問自答し、そのための態度を養うことは、大学という枠を超えた自分の生き方を見つめることに繋がるでしょう。とはいえ、先生を交えて学食に行ったり、ゼミ旅行に行くなど、穏やかで楽しい雰囲気のできるゼミです(笑)

朝鮮史、日韓関係、フェミニズムなどに関心ある方、お待ちしております！(西山理子)

(地域社会研究コース 舩方周一郎ゼミ)

舩方ゼミは、比較地域研究を軸とし、様々な地域の研究を扱っています。先生の専攻地域は、ブラジル(ラテンアメリカ地域)ですが、ほとんどのゼミ生がポルトガル語科以外です！テーマも自由に、幅広く扱っていて、これから自分がどんな研究をしていきたいのか、はっきりしていない人も安心してテーマを見つけていくことができます。ゼミ全体で意識していることは、リサーチクエストを持ち、深めていくことです。興味ある分野の小さな疑問をゼミ内で取り上げ、全員で議論していきます。毎週、自分では気づかない点を指摘され、多くの気づきを得られました。自分の研究テーマのみではなく、地域研究そのものについて深く学ぶことのできるゼミだと思います。今年度は、他大学との合同ゼミを実施しました。他大の研究仲間ができるというのも非常に魅力的です！ゼミ内でも、交流の機会がたくさんあり、アットホームなゼミです。ホームページもあるので、ぜひ覗いてみてください。みなさんのことをお待ちしております！（畑萌香）

(地域社会研究コース 宮田敏之ゼミ)

「モノから社会を見つめる」、この考えに惹かれて私は宮田ゼミに入りました。多様な文化や歴史の中で、独自の発展を遂げた東南アジアを紐解くため、宮田ゼミでは自分なりの「切り口」を大切にしています。例えば、カンボジアの伝統絹織物が世界で注目される実態を調べたり、日本の乳製品メーカーがタイで成功した背景を調べたり、他にもタイの映画産業やミャンマーの自動車産業などゼミ生の専攻と興味は様々です。ゼミでは、お互いの問題関心を大切に、文献収集、分析、論文執筆方法を学び、意見交換します。多様な地域・テーマを扱う中で、徐々に「問いを見つける力」や「地域に根差す視点・社会を俯瞰する視点」が身についたように思います。ゼミは和気あいあいとした温かい雰囲気、先生は一人ひとりにじっくり耳を傾けてくださいます。自分の興味を深掘りしたい、初歩から経済を考える力を養いたい、地域を通じて国際社会を俯瞰したい、そんな方にお勧めのゼミです！（野口亜依）

(地域社会研究コース 山内由理子ゼミ)

山内ゼミは、「大学で学問すること」を実感できるゼミです！3年生の段階では、『想像の共同体』といった古典やその他論文の読解を通じて、学術文献の読み方を学ぶとともに、日本を含めた現代世界を批判的に見る力を養うことができます。自分自身、ゼミでの学びを通して、それまで当たり前だと思っていた世界の見方が変わりました！4年生では、卒論の執筆が主な目標になります。ゼミ生の研究テーマや対象地域は様々で、ハワイのフラダンスやオーストラリアの先住民に関するもの、南北アメリカの先住民に関するものなど様々です。過去には、「旅行」をテーマに研究されていた先輩もいます。先生はゼミ生一人ひとりに寄り添ってサポートして下さいますので、文化人類学に興味のある方はもちろん、自身の関心領域を探求したい人にもお勧めです！山内ゼミで切磋琢磨できる仲間と共に、自らの“問い”に向き合ってみませんか？（赤木克行）

(現代世界論コース 小野寺拓也ゼミ)

「上限」については柔軟に対応するー4年最初のゼミでのこの言葉通り、ゼミ生の意欲や積極性にに応じて小野寺先生は親身に指導して下さいます。図書館にない貴重な文献を惜しみなく何冊も貸して下さったり、日々の課題や卒論に関するアドバイスをたくさん下さったり…また、就活などと十分に両立できるよう、このゼミでは一足早く3年生で卒論準備の小論文を執筆します。これは他のゼミではあまり見ない取り組みだと思いますが、問いの立て方や論文の書き方などを早い段階で学ぶことで、落ち着いて卒論に取り掛かることができます。欧語文献と格闘したり先生のコメントを必死でメモして卒論の内容に頭を悩ませたりする中で、確実に力がつくはずですよ。「大学生活で思う存分学び切った！」という経験は一生の財産になると思います。ドイツ近代史についての様々な問題関心を持ったゼミ生と切磋琢磨しながら、小野寺ゼミで充実した2年間を送りませんか？（大熊葉月）

(現代世界論コース 田邊佳美ゼミ)

国際社会学と聞いて、どんなイメージが浮かびますか？ぱっと答えにくいかもしれません。例えば紛争のニュースを見聞きして、「現地の人は今、どんなふうにいるんだろう？例えば女性は？移民は？労働者は？」と考えたことがあるなら、本ゼミでの学びが合うのではと思います。ゼミ生はそれぞれ異なる問題関心を持っていますが、社会全体の大きな流れを掴みつつ、そこで生きる個々に目を向ける人が多いです。授業内容は文献購読とディスカッションが中心です。大きな特徴は二つ。一つ目はゼミ生の関心に合わせて文献が選ばれるところ。毎年多様な学生が集まりますが、先生がそれぞれに合ったテーマで本を用意してくれます。二つ目はディスカッションが盛んなところ。背景には安心して発言できる空気感があります。「自信がないな」と思いながら言ったことでも、先生をはじめとしたメンバーが真摯に受け止めてくれます。文献の分からなかった部分を皆で考えたり、内容に引き付けて自身の体験を共有したり、議論は多岐に渡ります。ピクニックや懇親会もあり、先生や先輩への相談もしやすい環境です。（Fさん）

(現代世界論コース 中山智香子ゼミ)

本ゼミでは「何が私を突き動かすのか」を徹底的に探求し、開示することが求められる。このグローバル社会の諸問題は常に複合的であり、学問の枠にとらわれずに手探りで問題と向き合わなければならない。既存のレンズにとらわれない自分なりの問題提起を、泥臭くみっともない姿を晒しながらも、直視し続け丹念に積み上げていく作業が不可欠である。具体的な活動として、まず三年次の春学期に基礎文献の輪読と並行し、複数名で論考を執筆する。それを土台に秋学期にはゼミ論文を個人で書く。そして四年次には集大成として卒業論文を完成させる。本ゼミの中で行うすべての活動には正解が無い。そのため周りの期待に応え、耳触りのいい言葉を並べる「いい子」は必要ない。比べられることも無ければ、よし悪しの評価をされることもない。そのような環境に身を置くことは、当然スリルを伴う。…が！！苦勞と引き換えに得られるものは何物にも代えがたい。それは、もはや戦友と言えるような存在である。真摯に学問に向き合う中で生まれる友情は、まさに本ゼミでしか得ることができない。同期や中山先生はもちろん、上級生や院生、卒業生の愛の鞭を受けながら、ともにパトスを燃やせるすべての外大生を待ち望んでいる。(中村優太)

(現代世界論コース 真島一郎ゼミ)

“自分は世界のどこに立っているのか”という共通の問いのもと、様々な分野に関心を持つ学生が、それぞれのテーマについて思う存分思考を深めることが出来るゼミです。研究テーマは多様ですが、各自でただ黙々と論文執筆に取り組むというわけではありません。むしろ、ゼミ友同士で研究テーマを共有し、友のテーマも自分事として一緒に考え、自身も新たな視点にであうというのが真島ゼミの大きな特徴です。毎年真島ゼミ生は、素敵なゼミ友との出会い、皆で一緒に励まし合いながら書き上げた論文に誇りを持って卒業していきます。私たちの身近に存在する“なにごとか”。そのままで、怒り、悲しみ、混乱し、考え、考え、考える…。そんな真島ゼミでの、日々を振り返るころ、以前の自分には想像もつかなかったような地点に立っていることでしょう。(文美友)

(現代世界論コース 梁英聖ゼミ)

「大学は、社会とは別の時間が流れている。それは、真理を探究する時間だ」——梁英聖先生がおっしゃったこの言葉は、梁ゼミを表す言葉としてもぴったりだと思います。ゼミでは、レイシズムと資本主義の関係を批判的に分析する思考力を身につけるため、古典を精読して社会理論を学びます。2022年度秋学期にはフーコーの『監獄の誕生』を読み、理解できるまで徹底的に教わりました。レジュメ作成や発表を積み重ねていく日々は、決して楽ではありません。しかし、普遍性を持つ理論を学ぶことは、社会の別のありかたを構想する上で必ず役立ちますし、どんな疑問にも真剣に向き合い丁寧に答えてくださる梁先生のもとでの学びは、とても楽しく、研究室には密度の濃い時間が流れています。知識や理論を、行動や実践に結びつけている梁先生の言葉は、鋭く、強く、優しいです。梁ゼミで、共に真理を探究し、「自分」という生の在り方を見つめ、創造してみませんか。(鳥倉捺央)

(国際関係コース 片岡 真輝ゼミ)

片岡ゼミでは、「記憶論」を通して、社会規範や人々の行動原理、国家間/集団間関係についてディスカッションをしながら学んでいます。歴史や政治、外交関係に興味がある方、なぜ？どうして？と疑問に思うことがある方にとってはぴったりのゼミだと言えます。「記憶論」なんて聞いたことがない、なんだそれは、と思う方、私もそうでした。過去の出来事を社会がどのように記憶するかは、現在の社会の規範によって決められますが、その過去の認識が我々の行動を規定する要因にもなります。このような記憶に関する理論を用いることで、小さな社会から国家間関係までも理解を深めることができるようになります。説明すると難しく感じますが、先生がとっても優しく丁寧に指導して下さるので心配無用です。地域に縛られないゼミだからこそ、各地域を専攻する生徒が集い、それぞれの地域についての知識を共有することができます。時に頭を使いすぎて筋肉痛になりそうな時もありますが、胸を張って研究を発表できるようになります！

(藤澤咲弥)

(国際関係コース 篠田英朗ゼミ)

私たち篠田ゼミでは平和構築について扱っています。平和構築？堅苦しくて難しそう…なんて思ったその貴方！篠田ゼミは先生のユーモア溢れるお喋りと個性豊かな同期や先輩に囲まれた暖かい空間です！先生は私たち学生に親身に寄り添ってくださり、進路相談だけでなく日常の悩み相談にも乗ってくださいます。同期や先輩との繋がりも強く、ゼミ合宿や食事会、就活体験談共有会も開催されています。研究テーマは平和構築のみに限定されておらず、昨年の卒業研究のテーマもクールジャパン政策や日本的経営からウクライナ侵略やイエメン内戦まで、一人一人の興味に応じて様々でした。3年生で扱う MECE や PCM は就職活動にも役立っています。もちろん国連文書読解や紛争分析手段学習も行います。省庁や独立行政法人を志す方にもおすすめのゼミで、先生がゼミ内で貴重な裏話を共有して下さいます。就職実績も良好です。篠田ゼミ一同、後輩のみなさんをお待ちしています！(伊吹玲緒)

(国際関係コース 武内進一ゼミ)

武内ゼミでは主に広義の「国際協力」を取り扱います。指導教員である武内教授は日本有数のアフリカ研究者ですので、アフリカへの関心が高く、かつ国際関係や開発といった切り口で学びを深めたい学生には持ってこいの学び場です。さりとてアフリカ地域専攻の学生ばかりが集まっているわけでもありません。また、国際協力、国際政治、開発経済、安全保障など、ゼミ生の関心分野は十人十色です。だからこそ、自身にはない新たな観点で物事を発見できる可能性があります。そのために必要不可欠なことは、議論への積極的な参加です。学んだ事柄を自身の専攻地域に置き換えて考え、得られた気づきを意見として発信することがゼミにおいて重要な役割を担います（意外にもこれが難しいのですが）。何に対しても質問・コメントをする心持ちで臨むと、あっと驚かされる発見が生まれることがあり、それこそがゼミという場で学ぶことの面白さであります。(山口天音)

(国際関係コース 松永泰行ゼミ)

「巨人の肩の上に立つ」という言葉をご存じでしょうか。ニュートンが用いたことでも有名なメタファー、先人たちの業績の上に現代の新たな知見や学問の進展が生まれることを意味しています。松永ゼミは、そうした知見に富む卒業論文を書くために巨人の肩を目指して登っていくようなところです。ゼミで扱うのは政治、社会、国際関係といったテーマで、毎学期のはじめにゼミ生の関心を聞いてから先生が決定します。一昨年の秋は Historical Institutionalism(歴史的制度主義)、昨年はポピュリズムや極右政党の台頭(春)とその背景にある社会・政治的構造(秋)でした。毎週新しい文献を読むため課題量は少なくありませんが、専門的な英語にも少しずつ慣れていき、学期末には確かな成長を感じることができます。また古典から最新のものまで様々な社会科学の理論との出会い、問題設定や手法からの学びもたくさんあります。先生の解説を通してその分野に関する知識を得るだけでなく、文献の中でどのような論理展開が行われているか分析する力をつけられることも魅力です。広く政治や国際的な事象に興味を持つみなさん、ぜひ松永ゼミと一緒に巨人の肩の上からの景色を望んでみませんか？(中村響)

*サブゼミとは？

本学では、指導教員とは別の教員が担当するゼミを履修することも可能です。このことを、通称「サブゼミ」と呼んでいます。皆さんの先輩の実体験から、サブゼミの利用法を見てみましょう（なお、全てのゼミがサブゼミを開講しているわけではありません。サブゼミを履修する際には、必ずその担当教員と事前に相談しましょう）。

私は本ゼミとして山内由理子先生のおセアニア地域研究演習に参加しながら、サブゼミとして大石高典先生のアフリカ地域研究演習に参加しました。文献研究がメインの本ゼミとフィールドワークを重視するサブゼミに参加したことで、より包括的な学びに繋がりました。サブゼミでは、国内外でフィールドワークを行ってきた学生の発表を通して、インタビューの手法や現地の人々との信頼関係の築き方などを学びました。こうしたサブゼミの環境に強く影響され、臆病で海外経験に乏しい私も国外のフィールドに足を踏み入れることができました。同時に本ゼミでの文献研究のおかげで、いざ現地に行った際に「これ、あの本で読んだぞ！」という、知識と実体験が重なる瞬間が多くあり、自らの研究対象への理解を深められました。最初は不安に思うかもしれませんが、本ゼミとは一味違うゼミに参加してみると、刺激的で有意義な時間になるのではないのでしょうか？。(山本万智)

本ゼミでは巽先生のロシア史ゼミ(地域研究)に所属し、サブゼミではロシア・ソ連・旧ソ連圏の政治や経済について研究する鈴木ゼミ(地域研究)と、国際政治や安全保障などの研究を行う吉崎ゼミ(国際関係)に参加していました。もともと興味の分野がロシア史、ソ連政治、国際政治と多々あり、その中でゼミを一つに絞るのには苦慮しました。しかしサブゼミという形を取ることで、自身の望む学びを得られたと思います。巽ゼミと鈴木ゼミは共にロシア・ソ連地域研究なので、相互に学んだ内容をリンクさせることができました。また吉崎ゼミでは国際政治を中心として論文の書き方や研究の手法なども教わり、卒論に向けた自身の課題設定や調査などに役立ちました。複数のゼミに参加することで、新たな視点から探究に取り組むことができます。皆さんも自身の興味関心に照らしあわせて、サブゼミを検討してはいかがでしょうか。(青木優太) * 2024年度は、吉崎ゼミはサブゼミとしては開講されません。



6. 学部賞受賞者紹介

国際社会学部では、指導教員から推薦があったすぐれた卒業論文に対して国際社会学部賞が授与されます。2023年度の受賞者と論文タイトルを紹介します。本学の学生は、受賞論文および紹介動画（本人の承諾があったもののみ）をMoodle上で閲覧できます。また、過去の先輩たちの卒業論文タイトルは学部ホームページで見ることができます。

■ 地域社会研究コース

へす木有那「ヨルダン・コンパクトをめぐる思惑—見過ごされた実情—」（青山弘之ゼミ）

北原陽太郎「『伝統』とは何か：帝政期からソ連期の料理本に見るロシア料理の本質」（巽由樹子ゼミ）

堤萌恵「他者との生活、他者の死は何をもたらすのか—山谷の日常生活支援住居施設で見た共同性—」（大石高典ゼミ）

下田紗英「チェコのエネルギー転換と原子力発電の推進」（舩方 周一郎ゼミ）

小楠創太「パブリック・ヒストリーとミュージアム：グダンスクの第二次世界大戦博物館を例に」（篠原 琢ゼミ）

椎名旺快「ロシア帝国の南西コーカサス併合とムスリム・ジョージア人の移住—北コーカサスとの比較を通じて」（鈴木義一ゼミ）

小島楓子「ナゴルノ・カラバフの2度の紛争とその後についての考察—アゼルバイジャンとアルメニアに着目して—」（木村暁ゼミ）

■ 現代世界論コース

菅晴紀「『法と秩序』の亀裂—『法と秩序』政策に対するスカーマン報告のイデオロギー的検討—」（中山智香子ゼミ）

水垣陽香「In Reclaiming Voice: Feminist Politics of Annihilation, Silencing, and Storytelling in Rebecca Solnit's *Recollection of My Nonexistence* (2021)」（大川正彦ゼミ）

大熊葉月「ビスマルク外交における『臨機応変さ』の分析—シュレスヴィヒ・ホルシュタイン問題と1875年目前の戦争危機の二事例から—」（小野寺拓也ゼミ）

■ 国際関係コース

猪俣みづき「Analysis of Myanmar's Education Revisions: Focusing on the CREATE Project and Education Borrowing Theory」（岡田昭人ゼミ）

松村美雪「企業の社会的責任と海外における人権意識—日本企業CSR報告書の分析—」（武内進一ゼミ）

三瓶剛「多国籍企業のアグレッシブ・タックス・プランニング対策としてのBEPSプロジェクトの効果検証—デジタル・エコノミー対策を中心に—」（田島陽一ゼミ）

内野剣「米中対立と国際秩序の変容—国連総会における理想点推定から—」（中山裕美ゼミ）

高木紀実「持続可能な開発に向けてASEAN地域の観光戦略に期待される役割」（内山直子ゼミ）

浅野渚果「『自由で開かれたインド太平洋』発展に向けた日米韓の連携強化の重要性の検討」（篠田英朗ゼミ）



前年度（2022年度）受賞者の声

新入生の皆さま、ご入学おめでとうございます。

卒業論文では、教育におけるテクノロジー活用の可能性や問題点について、特に AI 活用の是非に着目しながら考察しました。ゼミに所属した当初の関心とは異なる分野を扱ったため、不足した知識を補いながら考察を深める過程には常に不安がつきまといました。しかし、行き詰まった時に新たな視点を与えてくださった内山先生や同じゼミ生のおかげで無事書き上げることができ、さらに論文が国際社会学部賞を受賞し大変光栄に思います。卒業論文執筆を含めた外大での学びは、答えのない問いに根気強く向き合い、思考し続ける胆力を鍛える機会であったと感じています。現在、私は IT コンサルティングファームに勤めておりますが、日々の業務の中で生まれる課題に対して、仮説を立て解決の糸口を探る姿勢には通ずるものがあると思います。自らで考え抜いた経験は必ず将来の糧となると思いますので、皆さまもご自身の課題意識や興味関心に応じて深めていただければと思います。

田口 裕望（内山ゼミ 22年度卒）



社会人になってトレイルランニングを始めました



休日は愛知県尾張周辺の史跡や文化財などを巡っています

国際社会学部で学んだ数多くの知見の中でも特に今も大事にしているものがあります。それは、個人の問題は社会や世界の問題であり、社会や世界の問題は個人の問題であるということです。「私」の生きづらさは少なからず「私」が生きる社会や世界に起因するものですし、社会や世界の問題に対して行動することは「私」がどう生きていくかという命題に深く関わるものだと思います。私が卒業研究で扱ったパレスチナ問題についても、今、「私」の人間としての尊厳を取り戻せるかどうかの瀬戸際にいると捉えています。現在は塾講師として中学生に社会科を教えているため、パレスチナに対して直接向き合っておらず、自身の無力さを感じる毎日です。でも、社会という教科を通して、子どもたちに「他者」に対する想像力を育ませることができるのではないかと、そこからパレスチナへの眼差しも変えることができるのではないかと希望も持っています。国際社会学部での学びを通して、皆さんの生がより豊かで、より素敵なものになることを心より祈っています。 井口利奈（大川ゼミ 22年度卒）



卒業論文では、留学中ホストファミリーが語ってくれた追放の経験から、戦後旧ドイツ領から追放され、東ドイツにいたったドイツ系住民の経験、東ドイツ政府の移住民政策と、追放の記憶の在り方を扱いました。

学ぶおもしろさを伝え続けてくださる先生方や尊敬する学友に囲まれ、語学を「使う」力を確実に磨きつつ、知的好奇心の赴くまま幅広い学問分野の知見も深められる本学での学びは、アクセスできる世界を広げ、ものごとの複雑さと向き合うための補助線を増やしてくれました。大学での学びを総動員してドイツ語・英語の文献にかじりつき、15歳の自分の素朴な疑問に応えるテーマで卒業論文に取り組めた経験は、これからも拠り所となってくれるものです。現在は公的機関で働き、将来的にはドイツ駐在を希望しドイツ語学習も続けています。本学で直向きに学んだ経験は、人生のどこかで自分を支えてくれる糧になるはずです。みなさまの大学生活が充実したものになるよう、応援しています。 川嶋康子（篠原ゼミ 22年度卒）



卒業旅行で、コロナ禍で長期留学が中止になってしまったベルリンへ（ドイツ語科・篠原ゼミの友人と。川嶋：左端）

7. 卒業後の進路

就職 (2019 ~ 2022 年度卒業生の主な就職先)

公務
外務省
防衛省(※自衛隊等含む)
東京都庁
埼玉県庁
横浜市役所
製造業
(株)小松製作所
沖電気工業(株)
日本電気(株)(NEC)
トヨタ自動車(株)
ダイキン工業(株)
スズキ(株)
本田技研工業(株)
(株)日立製作所
ENEOSホールディングス(旧 J X T G エネルギー(株))
三井化学(株)
京セラ(株)
日本アイ・ピー・エム(株)
いすゞ自動車(株)
川崎重工業(株)
(株)マキタ
味の素(株)
日本ガイシ(株)
住友化学(株)
三菱マテリアル(株)
(株)ブリヂストン
三菱電機(株)
学術研究、専門・技術サービス業
アクセンチュア(株)
アビームコンサルティング(株)
(株)アイデア・インスティテュート
デロイトトーマツコンサルティング(同)
アンダーソン・毛利・友常法律事務所
森・濱田松本法律事務所
PwC コンサルティング合同会社
情報通信業
日本放送協会(NHK)
(社)共同通信社
日本オラクル(株)
(株)日本経済新聞社
楽天グループ(株)
日本タタ・コンサルタンシー・サービス(株)
金融業、保険業
(株)三井住友銀行
大和証券(株)
(株)みずほフィナンシャルグループ
SMBC 日興証券(株)

明治安田生命保険(相)
三井住友信託銀行(株)
第一生命保険(株)
(株)三菱UFJ銀行
三菱UFJ信託銀行(株)
卸売業、小売業
三菱商事(株)
三井物産(株)
伊藤忠商事(株)
ジョンソン・エンド・ジョンソン(株)
豊田通商(株)
(株)ファーストリテイリング
運輸業、郵便業
日本通運(株)
全日本空輸(株)
郵船ロジスティクス(株)
日本郵船(株)
日本郵便(株)
サービス業
(独)日本貿易振興機構(JETRO)
(独)国際交流基金
(独)国際協力機構(JICA)
パーソルキャリア(株)
リクルート
鉱業、採石業、砂利採取業
国際石油開発帝石(株)
(独)石油天然ガス・金属鉱物資源機構
生活関連サービス業、娯楽業
(株)JT&B
宿泊業、飲食サービス業
(株)星野リゾート・マネジメント
(株)プリンスホテル
アパグループ

大学院進学

(2017 ~ 2022 年度卒業生の主な進学先)

東京外国語大学大学院
一橋大学大学院
東京大学大学院
京都大学大学院
早稲田大学大学院
筑波大学大学院
慶應義塾大学大学院
北海道大学大学院
東京芸術大学大学院
東京都立大学大学院
名古屋大学大学院
神戸大学大学院



Welcome Messages ～私の進路～

藤田 玲音 さん
北西ヨーロッパ / 英語
地域社会研究コース
伊東ゼミ・4年生（23年度卒）
就職先：株式会社中川政七商店
（アナザー・ジャパン）

私は、学業の傍ら、三菱地所と中川政七商店による共同プロジェクト「アナザー・ジャパン」の1期生として、三菱地所が東京駅前で開発を進める「TOKYO TORCH」にて、47都道府県地域産品のセレクトショップを運営してきました。自ら産地に赴き、地域産品のセレクトから接客販売までを手がけた経験を通じて、地域の面白さを強く体感しています。そして、この事業を拡大すべく、アナザー・ジャパンの社長を目指して、創業300余年の奈良の老舗企業、中川政七商店に入社します。

外大生には、世界を見て、外へ開きたいという視野の広い方が多いと思いますが、同時に日本の地域の面白さにも触れてほしいと思います。物事を俯瞰して学ぶことも大切ですが、時には地域にぐっと入り込み、解像度を上げる作業も極めて重要です。

現地で人に会う。飯を食う。住んで暮らす。祭りに参加する。

行動を起こして初めて得られる学びがあります。僕も2年前に挑戦したからこそ今の進路があります。皆さんも大学受験での学びの型から脱皮して、挑戦を重ねてください！そこでの学びがあなたをあなたらしくさせてくれると思います。大学生の時間は一瞬です。どうかあなたらしい大学生活を送ってください。

愛媛県宇和島市の真珠養殖場にて



ご入学おめでとうございます。皆さんと入れ違いで外大を去る私は、4月より外務省で勤務します。入学前から外交官に憧れていた私にとって、外大は理想的な環境でした。2年生までは主に専攻語と格闘しつつ、幅広い授業を履修し、自分の関心や問題意識を探究しました。地域や分野への興味が先行するあまり、語学がおざなりになると後で苦労するという経験談は新入生の皆さんへのささやかなアドバイスとしたいと思います。香港への派遣留学は何にも代えがたい経験です。海外ではその土地に

内野 剣 さん
東アジア / 中国語
国際関係コース
中山裕美ゼミ・4年生（23年度卒）
就職先：外務省専門職



ついての理解と同じくらい日本についての理解が問われることに気づかされました。日本とは異なるルールで動く土地での生活、そして多国籍な環境で学んだ1年間は二の足を踏んでいた外務専門職の受験を決意するきっかけになりました。皆さんの目の前にはまささらな4年間があることはうらやましい限りです。この期間を通して積極的に経験を積みつつ、卒業時や就職活動時に大学生活を振り返って、何となくでも一貫性や軸のようなものが見えると、次のステージへの弾みがつくのではないかと思います。皆さんが充実した大学生活を送ることができるよう願っています。

留学先の香港・ビクトリア湾のジャンク船上にて

山崎 望未 さん
西南ヨーロッパ / フランス語
現代世界論コース
加藤ゼミ・4年生（23年度卒）
就職先：文部科学省

東京外国語大学国際社会学部に入学される皆さん、おめでとうございます！私は来年度4月より文部科学省で勤務することとなりました。入省試験に向けた勉強は学部3年生になってからはじめてのですが、入学当初は進路のことは何も考えておらず、自分の興味のある授業をたくさん受講していました。気になる授業をとっているうちに自分が問題意識を抱いてい

る分野が明確になっていき、将来はその問題解決に携わりたいと考えるようになりました。私の場合は特に、教育現場におけるジェンダー不平等問題に興味があり、国レベルで解決に携わりたいと考えた結果、文部科学省を目指そうと思うようになりました。学部1年、2年のころは必須授業も多く語学勉強が大変かと思いますが、自分が面白いなと思えるような授業を積極的に取ったり、学問以外でも興味があることにどんどん挑戦したりすることが、将来の進路を決めるきっかけの一つになるのではないかと思います。今しかできないことに挑戦し続けて、皆さんが実りある大学生活を過ごせることを願っています。

ショートビジットで滞在したカナダにて



平野 嶺さん
中央ヨーロッパ／ドイツ語
現代世界論コース
小野寺ゼミ・4年生（23年度卒）
進学先：東京外国語大学

東京外国語大学国際社会学部に入学される皆さん、おめでとうございます！
私は大学院に進学し、ドイツ・サッカー史を研究する予定です。しかし、入学当初は歴史学にあまり興味はなく、院進も考えていませんでした。歴史学に関心を持ったのは2年生の時です。ドイツ近現代史が専門の小野寺先生の地域基礎を受講し、二度の大戦と東西冷戦という激動の20世紀を歩んだドイツの歴史に惹かれ、歴史学を勉強したいと思うようになりました。その後、ドイツへの交換留学をきっかけに院進を考えるようになりました。ドイツは日本に比べ大学院への進学率が非常に高い国です。友達の多くは院生で、勉強熱心な彼らは自分の専門性を高めるために時間をかけて文献精読や論文執筆に取り組んでいました。彼らと過ごす中で、私も研究にじっくり取り組みたいと思うようになり、帰国後に院進を決意しました。私の経験はほんの一例ですが、皆さんにも進路選択に影響を与える出来事が必ずあるはずです。それは些細なことかもしれませんが、とにかく入学時に進路が漠然としていても大丈夫です。進路は日々色んなことを経験し、試行錯誤する中で少しずつ見えてくるものだからです。皆さんの学生生活が実りあるものになることを心から願っています。

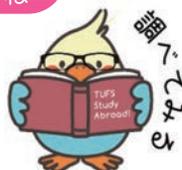


8. 学びのサポート案内

留学してみたいけど、どうしたらいいだろう……、就職のことも考えておいたほうがいいかな……、もっと英語を磨きたいな……。あるいは、ちょっと困ったな……。誰かに相談したいな……。そんな時に、大学には学生生活をサポートするさまざまな窓口があります。いつでも、遠慮なく相談してください。

- A. TUFUS アカデミック・サポート・センター（たふさぼ） ⇨ 日々の勉強に悩んだらまずココ
- B. 保健管理センター（本部管理棟隣） ⇨ 不調を感じた時、ケガをした時に
- C. 学生相談室 ⇨ こころの悩みがある時に
- D. グローバル・キャリア・センター（研究講義棟2階） ⇨ 就活を全面バックアップ
- E. 学習相談デスク（図書館4F） ⇨ 大学院生から、学習上のアドバイスがもらえます
- F. 留学支援共同利用センター（留学生日本語教育センター棟1階）
⇨ 留学（ショートビジット、協定校、私費……）に関する情報収集、相談はこちら
- G. 英語学習支援センター（ELC）（研究講義棟3階304室） ⇨ 英語学習をサポート
- H. 学生課、教務課（本部管理棟1F） ⇨ 学生生活や履修・成績関連一般はこちら
- I. 個別の教員 ⇨ 専攻言語や地域基礎など、よく会う教員に話してみようかな、というのもアリ

困ったときは
「相談窓口ガイド」
もよく読んでね



～みなさんの大学時代の学びを支える場となることを願って～

ご入学おめでとうございます。大学生活が始まると、「いろいろ勉強してみたい！でも何から始めたらいいのだろうか？」、「自分の問題関心って、どうやってつくれるの？どうやって広げられるの？」、「問いを立てるって、レポートを書くって、どうすればいいの？」、「授業になんだかついていけない」、「入学前に思い描いていた大学生活と、全然違う…」など、戸惑い、不安、悩みをもつこともでてくるかと思います。

そんなとき、ぜひ、たふさぽを利用してください。

1. 教員・大学院生などからなるスタッフがみなさんの学修をサポートします

TUFS Academic Support Center (たふさぽ) では、TUFS Record (たふれこ)、学修活動履歴書、ディプロマ・サプリメントに関するサポート、履修に関する相談、学内の各種学修プログラムや特別授業の紹介を行っています。将来のために何に取り組むべきか迷ったとき、どうやって自分の興味関心を広げたらよいか悩んだときなどに、たふさぽを活用してください。

1-1. TUFS Record(たふれこ)

学内外の多様な学修活動を記録するシステム「TUFS Record」(たふれこ)は、自分自身を振り返って客観的に見つめ直すことがしやすくなり、課題が明確になるツールです。「TUFS Record」に登録された情報は、「学修活動履歴書」と「ディプロマ・サプリメント」の重要な情報源となります。

たふれこって何だろうと関心を持ってくださった方は、ぜひ、「TUFS Moodle」にアクセスしてみてください。マイコースから、「TUFS Record (〇〇年度入学者)」のコースに入ってくださいと、たふれこが始まります。使い方動画もアップしていますので、ぜひ視聴ください。

自分で登録・編集できない情報は、登録申請フォーム (Google フォーム) から届け出てください。毎年、みなさんが自主的に受験した言語力の外部試験結果 (英語と英語以外の言語) について、多数の届け出があります。

外部試験結果申請例: TOEIC、IELTS、TOEFL、ドイツ語 (ゲーテ・ドイツ語検定試験) やフランス語 (実用フランス語技能検定試験)、イタリア語 (実用イタリア語検定試験)、スペイン語 (スペイン語認定証)、中国語 (HSK) など。

1-2. ミニ相談・学修相談

■たふさぽ窓口では、TUFS Record (たふれこ) に関する問い合わせや学びに関連するさまざまな相談を受け付けています。これらの質問や相談は「ミニ相談」として、教員や大学院生などからなるスタッフが対応します。事前予約不要です。お気軽にお越しください。

■履修の仕方やゼミ選択、転学部、転学、卒論の書き方、大学院進学など、時間をかけて相談したいことがある場合には、「学修相談」を予約してください。学修相談員である金井先生・丹羽先生とじっくり、オンライン (zoom) でお話しください。

■最新の予約方法などは、たふさぽ HP をご確認ください。

■2023年度国社の学生さんからの相談例: 履修の計画、ゼミ選択、転ゼミ、留学と進路、卒論の進め方、休学期間の過ごし方、復学に向けて、進級・卒業要件の確認、転学部、転学/編入、大学院進学 (海外含む)、奨学金申請書類の添削など。



1-3. たふさぽ・おしゃべり会 (オンライン/対面開催)

■学生のみなさん同士がつながり・話せる機会を作り出たく、たふさぽ・おしゃべり会を開催しています。

■毎回 10 名程度の方が参加してくれていて、その時々のおトピックについて、たふさぽスタッフを交えておしゃべりをしています。

■学部やゼミ、学年をこえたゆるやかなつながりの中で、アイデアやひらめき、共感がうまれています。

■2024年度も春学期より、おしゃべり会を企画しています。よかったらぜひご参加ください。企画のアイデアも絶賛募集中です！

2023 年度開催おしゃべり会一覧



2. たふさぼスタッフからみなさんへのメッセージ

教務アドバイザー

こんにちは。学修相談員の金井光太郎です。時代は大きな転換点を迎え、内外ともに社会の構造が大きく揺らいでいます。その中でどう人間らしく、そして自分らしく生きてゆか問われます。今までの「正解」は通用しません。自分で世界に向き合い、悩み、考えて選んでゆくしかありません。そのためには人との出会いを大事にして下さい。時にぶつかることも必要です。おかしなことに異を唱えるには勇気がいりますが、自分を大切に、仲間を大切に。そうした皆さんの奮闘にたふさぼは寄り添います。まずは授業やテスト、ゼミ選択、留学、卒論、そして進路の選択。友達との関係や学資のことも大事です。ちょっと話し相手が欲しかっただけでもあります。お待ちしております。

教務アドバイザー

こんにちは。学修相談員の丹羽京子です。2023年の3月まで、言語文化学部、ベンガル語専攻で教員を務めていました。専門は文学です。わたしは、大学生活は良い意味での「モラトリアム」期間であると考えています。モラトリアムというと、ネガティブな意味で使われることが多いのですが、本来は「猶予期間」を指します。つまり、これは完全な「大人」になるための最後の猶予期間であり、これから自分が何をしたいのか、どう生きたいのか、自分とはなんなのかをじっくり考えることができる貴重な時期であるということです。もちろんそのためにはただ坐って考えていてもしかなかったありません。授業やゼミでの学びもあるでしょうし、サークルやボランティアなど様々な活動での気づきもあるでしょう。それを大事にしてもらいたいからこそ、この貴重な時間をすり減らしてしまうことがないように、なにか問題があったらすぐに相談してもらいたいと思います。

たふさぼスタッフ（国際社会学部卒・博士後期課程2年）：

国際社会学部では幅広いテーマについて自由に学ぶことができます。自由に選べるのはよいことですが、すべて学ぶ、というのは難しいです。取捨選択をしなければなりません。やりたいことがまだない場合もありますね。さらには、アルバイト、部活・サークル、留学なども学生生活の一部となりますが、ここでも時間・労力の配分を工夫しなければ混乱してしまいます。たふさぼでは対話をとおして、ご自身がやりたいこと・なすべきことを整理できるようサポートいたします。

たふさぼスタッフ（国際社会学部卒・博士前期課程2年）：

大学では比較的自由に時間を費やすことができ、ご自身の興味・関心に応じて学内外で好きなことに挑戦できることから、これからの大学生活には無限の可能性が広がっているといえます。しかし、大学での授業や海外留学などを通じてまだ見ぬ世界を望むことに心躍る一方で、思いがけない困難に直面するかもしれません。例えば、未曾有の危機といわれたコロナ禍では多くの先輩たちがその後の計画の変更を余儀なくされました。大学生活を送るうえでの困難は、そのようなニュースで取り上げられるような事象に限らず、日常にも潜んでいます。たとえ些細に感じることであっても、何か困難を感じた時はたふさぼに相談してみてください。「個人的なことは社会的なこと」[貴戸 2021]であり、あなたはひとりではありません。他者との対話を通じて解決の糸口を探っていきましょう。たふさぼはあなたに寄り添う存在です。

たふさぼ・センター長

たふさぼ・センター長の布川あゆみです。ご入学おめでとうございます。

例年春学期は、1年生から「履修の組み方がよく分からない」、「一人暮らしに慣れず、ゴールデンウィーク明けから授業を欠席してしまっている」、「レポートを書く時に文献の引用の仕方や文献リストの書き方が分からない」などの相談を多く受けています。

これまで先輩たちがあゆんださまざまな「道」を参考に、みなさんそれぞれの「道」を一緒に考える場として、たふさぼが位置づくよう、願っています。ぜひぶらりとたふさぼに寄ってください（ヘッドセットを忘れてしまった、PCが壊れた、そんな時もたふさぼへ。一時貸し出ししています）。

スタッフ一同みなさんとお会いできることを楽しみにしています。

3. たふさぼへのアクセス

場所：研究講義棟1階北側エントランス横

開室時間：月曜～金曜 10:00～15:00

(8月は閉室)

お問い合わせ先

TUFS Academic Support Center

住所：〒183-8534 東京都府中市朝日町3-11-1

電話：042-330-5885

メールアドレス：academic-support-center@tufs.ac.jp

たふさぼ HP: <http://www.tufs.ac.jp/institutions/facility/tufssupport/>



たふさぼ室内の様子



たふさぼ前ホワイトボード：タイムリーなお知らせをアナウンスしています。

お見逃しなく！

9. 国際社会学部 教員一覧

国際社会学部で専修プログラムの授業を担当している専任教員の一覧です（この一覧には卒論演習を担当していない教員も含まれています）。

地域社会研究コース			
教員名	専門分野	研究室	e-mail
青木 雅浩	モンゴル地域研究、中央アジア・東北アジア近現代史	826	masamon@tufs.ac.jp
青山 弘之	現代中東（西アジア・北アフリカ）の政治・思想・歴史	837	aljabal@tufs.ac.jp
足立 享祐	インド地域研究、歴史学（近現代史）、ヒンディー語	802	adachi.kyosuke@tufs.ac.jp
生駒 美樹	文化人類学、ミャンマー・東南アジア地域研究	660	ikoma_miki@tufs.ac.jp
伊東 剛史	イギリス近代史、人と動物の関係史、感情史	626	t.ito@tufs.ac.jp
大石 高典	生態人類学、アフリカ研究、狩猟採集民、森林と人間	506A	takanori@tufs.ac.jp
大鳥 由香子	北アメリカ地域研究、アメリカ近現代史、子どもの歴史	659	yukako.o@tufs.ac.jp
小田 なら	東南アジア地域研究、ベトナム現代史	514	naraoda@tufs.ac.jp
小田原 琳	イタリア近現代史、ジェンダー史	760	rodawara@tufs.ac.jp
川本 智史	中東地域研究（トルコ）、都市史・建築史	806	skawamoto@tufs.ac.jp
菊池 陽子	東南アジア近現代史、ラオス近現代史	639	kikuchiyoko@tufs.ac.jp
金 悠進	インドネシアを中心とした東南アジア地域研究	652	kim.yujin@tufs.ac.jp
木村 暁	中央アジア史、中央アジア地域研究	834	s_kimura@tufs.ac.jp
日下 渉	フィリピンを中心とした東南アジア地域研究	637	kusaka@tufs.ac.jp
久米 順子	スペイン中世美術史、西洋美術史、文化史	726	kumejun@tufs.ac.jp
倉田 明子	中国・香港近現代史（社会史、キリスト教史）	853	akurata@tufs.ac.jp
坂井 真紀子	農村社会学、アフリカ地域研究、村落開発	720	sakai_makiko@tufs.ac.jp
澤田 ゆかり	中国（含む香港）に関する社会保障と労働問題	852	sawada@tufs.ac.jp
篠原 琢	中央ヨーロッパ近・現代史（18-20世紀）	718	takus@tufs.ac.jp
鈴木 義一	現代ロシア地域研究、ソ連史、比較経済体制論	704	ysuzuki@tufs.ac.jp
芹生 尚子	近世フランス史、史学史	761	nseriu@tufs.ac.jp
左右田 直規	東南アジア近現代史、マレーシア政治社会史	601	soda@tufs.ac.jp
巽 由樹子	ロシア史、メディア研究	703	tatsumi@tufs.ac.jp
千葉 敏之	ヨーロッパ中世史、キリスト教史、歴史資料体学	649	t-chiba@tufs.ac.jp



友常 勉	日本思想史、日本近現代史、社会運動史、日本のマイノリティ	707	ttmotsune@tufs.ac.jp
登利谷 正人	アフガニスタン・パキスタン地域研究・近現代史	851	toriya@tufs.ac.jp
萩尾 生	バスク地域研究、言語社会学	728	shohagio@tufs.ac.jp
福嶋 千穂	近世ポーランド・リトアニア史、前近代のウクライナ	717	fsch@tufs.ac.jp
藤井 豪	朝鮮近現代史、韓国現代社会	857	nareh0810@tufs.ac.jp
ポータージョン	日本近世・近代史、都市社会史、民衆史、古文書学	522	jporter@tufs.ac.jp
舩方 周一郎	国際関係論、比較地域研究、ラテンアメリカ政治	618	s-masukata@tufs.ac.jp
宮田 敏之	東南アジア経済研究、タイ地域研究、タイ経済研究	531	tmiyata@tufs.ac.jp
山内 由理子	文化人類学、先住民研究、オセアニア地域研究	625	yuriko.yamanouchi@tufs.ac.jp
ルシオ デソウザ	近代ヨーロッパ - アジア関係	617	sousa.lucio@tufs.ac.jp

現代世界論コース

教員名	専門分野	研究室	e-mail
上原 こずえ	社会学、沖縄現代史、社会運動史	551	uehara@tufs.ac.jp
大川 正彦	政治学（原論・政治理論）、倫理学、いのち論	546	okawa@tufs.ac.jp
小野寺 拓也	ドイツ現代史、ナチズム論、日常史、感情史、男性史	647	tonodera@tufs.ac.jp
加藤 美帆	教育社会学、家族社会学、ジェンダーと教育	528	mihokato@tufs.ac.jp
竹田 恵子	ジェンダー／セクシュアリティ研究、社会学	518	keiko_takeda@tufs.ac.jp
田邊 佳美	国際社会学、フランス現代社会研究、移住研究、交差性	723	yoshimi.tanabe.i@tufs.ac.jp
東城 文柄	バングラデシュ地域研究、地理情報科学、環境保全論	506C	tojo.b21@tufs.ac.jp
中山 智香子	社会思想、経済思想、グローバルスタディーズ	504	nakac@tufs.ac.jp
蛭田 圭	政治哲学	517	kei.hiruta@tufs.ac.jp
古川 高子	近現代ヨーロッパ史、アルピニズム、自然の思想史	559	furukawa@tufs.ac.jp
真島 一郎	社会人類学、現代思想、西アフリカ民族誌	503	imajima@tufs.ac.jp
米谷 匡史	日本思想史・社会思想史、アジア論、植民地研究	820	yonetani@tufs.ac.jp
梁 英聖	レイシズム研究、資本主義と差別、在日朝鮮人差別	516	yongsong@tufs.ac.jp



国際関係コース

教員名	専門分野	研究室	e-mail
内山 直子	ラテンアメリカ地域研究、開発経済学	731	n.uchiyama@tufs.ac.jp
岡田 昭人	比較国際教育学、異文化コミュニケーション	532	aokada@tufs.ac.jp
片岡 真輝	国際関係、記憶、歴史認識、オセアニア政治	631	masaki_kataoka@tufs.ac.jp
菊地 和也	応用経済学、ゲーム理論	554	kkikuchi@tufs.ac.jp
篠田 英朗	平和構築、紛争解決、国際秩序論、国際協力、国際組織	505	hshinoda@tufs.ac.jp
鈴木 美弥子	民法、消費者法、環境法	555	mysuzuki@tufs.ac.jp
武内 進一	アフリカ研究、国際関係論、国際協力論	401E2; AA 研棟 611	shinichi_takeuchi@tufs.ac.jp
田島 陽一	国際経済学、開発経済学、メキシコ経済論	556	tajima@tufs.ac.jp
谷 一巳	国際政治論		HPを確認してください
出町 一恵	国際金融論、開発経済論	830C	k.demachi@tufs.ac.jp
中山 裕美	国際政治学、国際協調、地域統合、移民・難民問題	830A	yumi-nakayama@tufs.ac.jp
松隈 潤	国際法、国際機構論	550	jmatsukuma@tufs.ac.jp
松永 泰行	比較政治学、政治社会学（争議政治）、国際関係論	524	matsunaga@tufs.ac.jp
吉崎 知典	国際政治、安全保障、国連平和維持活動（PKO）	501	tomoyoshizaki@tufs.ac.jp
若松 邦弘	比較政治（西欧）、福祉・移民・環境など社会争点政治	661	kwakamat@tufs.ac.jp

Welcome Messages

小野寺 拓也 先生
現代世界論コース

新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。

・・・と書き出したものはいいものの、その先がなかなか思いつかなかった

私は、何かヒントが得られればと生成 AI に聞いてみることにしました。「大学教員として新入生に贈る言葉を 500 字程度で考えてください」。その結果生成された挨拶文は実に素晴らしいもので、私が一人で思いつくようなレベルをはるかに凌駕する、新入生の皆さんを強く勇気づける文章になっていました。

人間にできて AI にできないことは何か。大学に入学したばかりの皆さんにとっても（もちろん私にとっても）、とても大きな問題だと思います。答えはいろいろあるかと思うのですが、一つのヒントが「感情」にあるのではないかと私は考えています。喜び、悲しみ、怒り、驚き、不安。皆さんはこれからの大学生活で、数多くの感情を味わうことでしょう。感情と紐付いた経験は、人間の心に長く残ります。自分の人生観が大きく変わることもあるでしょうし、他人を深く傷つけることもあるでしょう。人間にしかできないこと、私だからこそできることは何なのか。そうした「問い」を頭の片隅におきながら、これからの学生生活を送っていただければと思います。



10. よくある質問コーナー

外大新入生版

Q1. 入学前に ICC アカウントとパスワードが配布されたそうですが、受け取っていません。どうすればよいですか？

A1. ICC アカウント取得に関するお知らせは、入学手続の際に住所等と一緒にウェブページに入力されたメールアドレス宛に送られています。もう一度確認してみてください。

メールを受け取っていない / 紛失した場合は、東京外国語大学総合情報コラボレーションセンター (ICC センター) に連絡してください。 E-mail: icc-service@tufs.ac.jp

Q2. 春学期の GLIP 科目の履修や登録方法について質問があります。どこに連絡すればいいですか？

A2. GLIP テスクに問い合わせてください

GLIP テスク (研究講義棟 412 教室) E-mail: glip@tufs.ac.jp Tel: 042-330-5366

Q3. 春学期は何コマくらい履修すればいいですか？

A3. **12-15 コマ**をおススメします。必修科目、進級要件科目を中心にまず時間割を組み、そこに教養科目を足していく、というイメージが良いと思います。

Q4. 授業をどうしても欠席しないといけません。どんな手続きが必要ですか？

A4. 欠席には公欠になるものとならないものがあります。履修案内 p.13- をよく読み、必要な手続きをしてください。

Q5. 履修している科目の担当の先生に連絡したいことがあります。メールアドレスが分からないのですが、どうすればいいですか？

A5. 大学ホームページの「研究者一覧」には外大所属の教員が全員載っています。

ここに目指す先生がいるか、その先生のページにメールアドレスが書いてあるか、確認しましょう。

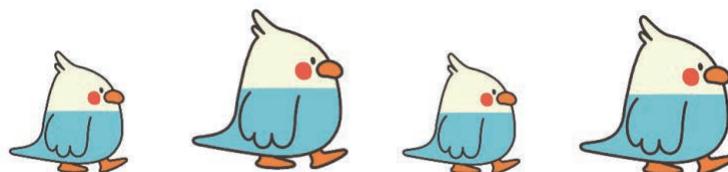
<http://www.tufs.ac.jp/research/researcher/people/index.html>



Q6. 確認しましたが、そこには先生の名前(メールアドレス)がありませんでした。どうしたらいいですか？

A6. 非常勤の先生については、個人情報の観点から情報は公開されていません。授業時間中に連絡を取ることを優先してください。緊急の場合は教務課に相談してください。また、下記の科目群については、それぞれ担当の専任教員にも相談してみてください。

専攻言語・地域基礎の場合→専攻言語代表教員・地域代表教員 } 「2024 年度時間割検索
教養外国語の場合→教養外国語担当教員 } ガイドブック」 p.8
GLIP 科目の場合→ GLIP テスク (→ A2.)





2024年度 国際社会学部 学部運営体制

学部長 千葉 敏之
副学部長 加藤 美帆

地域社会研究コース コース長 宮田 敏之
現代世界論コース コース長 大川 正彦
国際関係コース コース長 田島 陽一

学部長補佐（入試担当） 小野寺 拓也
学部長補佐（教務：カリキュラム担当） 上原 こそえ
学部長補佐（教務：ゼミ選択／学生担当） 中山 裕美
学部長補佐（広報・点検評価担当） 伊東 剛史

地域代表教員

北西ヨーロッパ	伊東 剛史
中央ヨーロッパ	福嶋 千穂
西南ヨーロッパ	小田原 琳
イベリア	久米 順子
ロシア	鈴木 義一
中央アジア	木村 暁
東アジア	藤井 豪
北アメリカ	伊東 剛史
ラテンアメリカ	内山 直子
アフリカ	大石 尚典
オセアニア	山内 由理子
東南アジア	宮田 敏之
南アジア	登利谷 正人
中東	青山 弘之

※作成にあたって TUFSS Academic Support Center のご協力をいただきました

東京外国語大学 国際社会学部の歩き方

2024年度入学生版

2024年3月発行

東京外国語大学 国際社会学部

表紙デザイン：園田夏帆

（地域社会研究コース 西南ヨーロッパ／フランス語 3年生）※学年は発行時